

添付資料

番号	発話	表現上の特徴				構造上の特徴			接続表現	
		描写	脚色			判断 に迷 う	大枠	設定		内容
			外面	内面	説明					
C1-1	この絵本の中に書かれてたのはわたしがこう思 てますが、			○		△				
C1-2	犬の復讐物語です。			○		△				
C1-3	このような物語です。			○		△				
C1-4	一匹の犬がもともと幸せな暮らしを暮らしてまし た。		○				△			
C1-5	主人とすごく仲良くて、		○				△			
C1-6	毎日楽しんでました。			●			△			
C1-7	でも、ある日突然、主人に砂漠まで連れ出されて、		○					△	でも	
C1-8	そこにおかれて、と、おかされ、置かれたまま、 主人たちが帰ってしまった。	○						△		
C1-9	その犬はたぶん主人たちが自分に、と、遊んでる と思って、			●				△		
C1-10	車を追いかけそうとしましたが、			●				△		
C1-11	結局失敗しました。		○						結局	
C1-12	えーと、でも、それまで、その犬はまだきつと遊 んでいるだと思って、			●				△	でも	
C1-13	ずっとそこで主人を待っていた。	○						△		
C1-14	きつとつか主人が連れ戻そうとしてもう一度こ こに来てと信じて			●				△		
C1-15	そこでずっと待ち続けていた。	○						△		
C1-16	でも何日待っても		○					△	でも	
C1-17	主人は帰ってこなかった。	○						△		
C1-18	犬は結局絶望に陥った。			●				△		
C1-19	そのときになって		○					△		
C1-20	やっと自分が捨てられたと事実が分かった。			●				△		
C1-21	そのとき犬はとても悲しかった。			●				△		
C1-22	そんなに仲良かったのに			●				△		
C1-23	こんな簡単に捨てられちゃったとは。			●				△		
C1-24	そして犬は復讐しようと思った。			●				△	そして	
C1-25	一年ぐらいたった。			○			△			
C1-26	あの一、そのあとは犬はずっとその砂漠の周りで 待ってました。		○				△			
C1-27	一年ぐらいたってからある日、			○			△			

添付資料

C1-28	急、慣れた匂いがしました。					○			△	
C1-29	主人の車がたまたまこの砂漠をもう一回通過しました。					○			△	
C1-30	そのとき道路のそば、道路のそばに待ち構えた犬は急に車の前に飛び出して、	○							△	
C1-31	衝突事故になっちゃった。	○							△	
C1-32	その車の中に座っていた、あ、乗っていた主人も妻も死んでしまいました。		○						△	
C1-33	死んでから犬はまだ憎しみを抱えて			●					△	
C1-34	その墓の前でうんちしてしまいました。	○							△	
C1-35	そのあと復讐はやっと終わったけど		○						△	
C1-36	犬はうれしい気持ちはじっともなかった。			●					△	
C1-37	自分はこれからどうやって生きていくか迷っていました。			●					△	
C1-38	それでその犬は砂漠の中毎日行ったりきたりしてて	○							△	それで
C1-39	遠くから人の影を見る、見ると	○							△	
C1-40	近づけ、近づきたいという気持ちが沸いてしょうがなかった。			●					△	
C1-41	でも、そうしてはいけなと思って、			●					△	でも
C1-42	そういう人に近づきたいという衝動を心の中に抑えて、			●					△	
C1-43	毎日、そこでうろろろしていた。	○							△	
C1-44	でも、やっど、自分がやっぱり都市に戻りたいという気持ちが抑えられなくて			●					△	でも
C1-45	もう一回都市に戻ってきたけど	○							△	
C1-46	もう自分の居場所はなかった。		○						△	
C1-47	人々に、えーと、人々はみんなこの汚くて、きれいじゃない犬を追いかけそうと、おいださ、追い出そうとしました。	○							△	
C1-48	結局しようがなく、			●					△	結局
C1-49	犬はまた砂漠に戻ってしまいました。	○							△	
C1-50	毎日、そこで何をしようかなと思って、			●					△	
C1-51	でも自分の生き甲斐がどこにあるか全然分からなくて			●					△	でも
C1-52	そ、その状況の下、ある日、男の子に出会いました。	○						△		その状況下
C1-53	やっど自分の、き、人に近づきたいという衝動が抑えられなくて			●					△	やっど

添付資料

C1-54	その男の子に近づきました。	○						△	
C1-55	そのとき、急に、ずっと前から期待していた親しみが親しみが覚えられました。			●				△	
C1-56	そのとき、犬はやっと分かりました。			●				△	
C1-57	自分は、本当は、主人たちをえーと、恨んでるのではなく、			●				△	
C1-58	ただ愛を期待しているだけだから。			●				△	
C1-59	この犬は最後にこのように思いました。				○		△		
C1-60	たぶん、愛も憎しみも最初は人を思う気持ちから生まれるんだって、			●			△		たぶん
C1-61	自分は本当に間違えたと思った。			●			△		
C1-62	このような物語だった。				○		△		

添付資料

番号	発話	表現上の特徴				構造上の特徴			接続表現	
		描写	脚色			判断 に迷 う	大枠	設定		内容
			外面	内面	説明					
C2-1	えーと、昔エンジェルという名前の犬がいました。			○			△			
C2-2	とても活発で、かわいい犬でした。			○			△			
C2-3	えーと、彼、彼女は、くり、きゅうじゅうきゅう、千九百九十九年のくすすます、クリスマスにえーと、ひとり、夫婦にかっ、飼っていました。		○				△			
C2-4	その夫婦はそのクリスマス、クリスマスイブのときに彼女にエンジェルという名前を名づけました。		○				△			
C2-5	いつ、ある日、エンジェルはその夫婦たちと一緒に車で出かけました。		○				△			
C2-6	エンジェルはたぶん、この日も、いつもと同じようにどこかに、どこかおもしろいところに行くじゃないかなと思いましたが、			●			△			
C2-7	こう、うんー、ところが、とう、高速道路に行って、		○				△		ところが	
C2-8	途中で、えーと、その主人にす、うんー、うんー、車の窓から捨てられました。	○						△		
C2-9	その犬はたぶん主人たちが自分に、と、遊んでると思って、			●				△		
C2-10	一生懸命車の後につけられて、つけて、	○						△		
C2-11	一生懸命に走りました。	○						△		
C2-12	しかし、その車はかっそ、加速して	○						△	しかし	
C2-13	うんー、及びもつかないので、	○						△		
C2-14	うんー、エンジェルはとてもがっかりして、がっ、がっかりしていました。			●				△		
C2-15	やっぱり懸命に走っていました。	○						△		
C2-16	うんーところが、うんー、いかに走り出しても及びつかないので、	○						△	ところが	
C2-17	うんー、エンジェルはとてもがっかりして、			●				△		
C2-18	とても悲しくて、			●				△		
C2-19	なん、なん、一体わたしが何を間違えただろう、			●				△		
C2-20	何で私を捨てるんだ			●				△		
C2-21	いろいろな疑問を出しました。			○				△		

添付資料

C2-22	が、彼女の質問を答える人はいません。				○			△	が、
C2-23	エンジェルは一人ぼっちで	○						△	
C2-24	高速道路をうんー、駆け回ったりしていました。	○						△	
C2-25	彼女は、うんー悲しみのあまりにいきなり、怒り出して、			●				△	
C2-26	うんー、自分の捨てられ、自分の捨てた人間に何か復讐しなければならないと思いました。			●			△		
C2-27	彼女はうんーいろいろ考えて、				○		△		
C2-28	一つのことになりました。				○		△		
C2-29	ちょうどふた、えーと、二両の車が走っている間に飛び出して、	○						△	ちょうど
C2-30	結局、その二つの車はぶつかってしまいました。	○						△	結局
C2-31	人々は大騒ぎしました。	○						△	
C2-32	「何だこの犬、この犬、本当に悪いやつだ」		○					△	
C2-33	エンジェルはそれを聞いて大喜びでした。			●				△	
C2-34	うんー、なぜかという、自分が、その、自分を捨てた人間に復讐をしましたから。				○			△	なぜかという と
C2-35	けっこう大喜びですけれども、			●				△	
C2-36	うんー、こういうようないたずらを何度も何度も繰り返して、		○					△	
C2-37	自分の悲しみと怒りをうんー、多少消したと思っ たんです。			●				△	
C2-38	ある日、彼女はいつものようにそういういたずら をやった後で、		○				△		
C2-39	散歩に行きました。		○					△	
C2-40	海の所に行きましたけど、	○						△	
C2-41	うんー、泥だら、うんー、うんー、水面の上に映 した泥だらけの自分の影を見て、					○		△	
C2-42	昔のことを思い出しました。			●				△	
C2-43	うんー、えーと、九十九年のクリスマスは、自分 がその夫婦に会え、			●				△	
C2-44	暖かくあつかわれて、			●				△	
C2-45	けっこう喜びでしたが、			●				△	
C2-46	なんで私は捨てられたらろうといろいろと考えま した。			●				△	
C2-47	彼女は自分の影を見て、	○						△	
C2-48	うんー、悲しみのあまりに泣き出しました。		○					△	
C2-49	うんー、えーと、エンジェルは、うんー、自分の			●				△	

添付資料

	捨てたその夫婦たちにはけっこう怒りだしたんですが、									
C2-50	やっぱり昔の楽しい、楽しいことを思い出して、			●					△	
C2-51	うんー、その夫婦たちに、うんー、とても懐かしいから、			●					△	
C2-52	思わず、昔住んでいたところに帰ってきました。	○							△	
C2-53	そういうマンションに戻って、	○							△	
C2-54	昔のことをいろいろと考え出しまし、考え出しましたら、			●					△	
C2-55	しかし、今の、今そのマンションは、うんー、誰一人もいません。	○							△	しかし
C2-56	彼女はがっかりして、			●					△	
C2-57	そのマンションを出て、					○			△	
C2-58	また高速道路にもど、えー、自分が捨てられた高速道路に戻りました。		○						△	
C2-59	うんー、そういう、うんーまた何かいたずらでもしようかと思って、			●					△	
C2-60	高速道路の、えーと、せき、うんー、そばでずっと待っていました。		○						△	
C2-61	夜、一人の女の子がやってきました。	○						△		
C2-62	うん、たぶん、長い旅をしてきましたかもしれませんが、		○						△	
C2-63	自分と同じように、泥だらけでした。		○						△	
C2-64	そー、うんー、ですが、彼の、うんー、えーと、その女子はけっこうかわいい、かわいくて、		○						△	ですが
C2-65	エンジェルのところに行ってきました。	○							△	
C2-66	「あなたの名前はなに？」		○						△	
C2-67	「私はエンジェルと申しますけど」		○						△	
C2-68	エンジェルはそれを聞いて泣き、		○						△	
C2-69	うんー感激のあまり泣き出して、			●					△	
C2-70	その女の、そのエンジェルという女の人にうんー、懐いていました。	○							△	
C2-71	以上です。				○		△			

添付資料

番号	発話	表現上の特徴				構造上の特徴			接続表現
		描写	脚色		判断 に迷 う	大枠	設定	内容	
			外面	内面					
C3-1	遠いから一つの車がやってきた。	○					△		
C3-2	突然、車から何か落ちてきました。	○					△	突然	
C3-3	ちゃんとみると、			○			△		
C3-4	それが一匹の犬です。	○					△		
C3-5	この犬は捨てられた。	○					△		
C3-6	犬は後ろから車をお、追って、追って、	○					△		
C3-7	でも車はだんだん、だんだん遠くなって、	○					△	でも	
C3-8	追えないようになりました。	○					△		
C3-9	最後に、車は姿が消えました。	○					△	最後に	
C3-10	犬の前に広がっているのは広い空き地だけと一本の道。	○					△		
C3-11	犬は、悲しそうに、		●				△		
C3-12	自分しかいない道を歩いていた。	○					△		
C3-13	孤独の存在になっていた。			○			△		
C3-14	突然、どこから車が、どこからかとにかく車の音がしていた。				○	△		突然	
C3-15	犬はその音にしたが、あー、お、あー、音に従って、	○					△		
C3-16	うんー、頭を振り向いた。	○					△		
C3-17	それは車の音だ。		●				△		
C3-18	犬は、あー、しゅ、あー、もしか、もしですかと思っ		●				△		
C3-19	て、その道を見ていた。	○					△		
C3-20	遠いから一つの車がやってきた。	○					△		
C3-21	犬はそれが自分の主（ぬし）だと思っ		●				△		
C3-22	て、その一、道に飛んで、	○					△		
C3-23	主の車を止めようとおもっ、としていた。		●				△		
C3-24	その車は犬をよけるように、	○					△		
C3-25	あー、他の方向に、うんー、運転していた。	○					△		
C3-26	しかし、雪が積もった道なので、		○				△	しかし	
C3-27	す、すべりすぎて、		○				△		
C3-28	くる、車が倒れてしまいました。	○					△		
C3-29	一つの道に、あー、道に倒れた車が後ろから車に、あー、ぶつかられて、	○					△		

添付資料

C3-30	それから、あー、そ、あー、次の車にも次の車が来る。	○						△	それから
C3-31	次の車にぶつ、ぶつかられて、	○						△	
C3-32	すごく大惨事になりました。	○						△	
C3-33	車が、あー、いいえ、その犬は、あー、その、に、その、車の中にいる人たちを見て、		○					△	
C3-34	自分の主がいなかった。		○					△	
C3-35	そして、自分、自分が自分のために、こんなに大惨事をおこ、起こされて、		○					△	そして
C3-36	悲しそうな顔して、		○					△	
C3-37	泣きそうな顔して、		○					△	
C3-38	去っていきました。	○						△	
C3-39	うんー、いま、犬しかいないこの空き地に、犬はある、歩いて、	○					△		
C3-40	突然、遠いところに二人の姿が見えました。	○					△		突然
C3-41	あの、もしか、もしですかと思って、			●				△	
C3-42	その二人の姿に向かって、	○						△	
C3-43	うんー、走っていきました。	○						△	
C3-44	しかし、近づいてはっきり見ると、	○						△	しかし
C3-45	それは、二人の恋人で、		○					△	
C3-46	自分の主ではない。		○					△	
C3-47	犬は、悲しそうに吠えて、	○						△	
C3-48	泣いたような姿に見えます。	○						△	
C3-49	主はやはり、あ、行くところ、あー、行くところがない犬はあの一、悲しそうに歩いていました。	○						△	
C3-50	そのときは、すごい風が吹いて、	○					△		そのとき
C3-51	空には黒い黒い雲、	○						△	
C3-52	あー、うんー、広い空き地に積もった雪には一行の犬の足跡が残っていた。	○						△	
C3-53	あー、その空き地には犬の孤独の姿しか見えない。		○					△	
C3-54	突然、犬はなんか、にぎやかな、こ、音が耳にした。		○					△	突然
C3-55	そ、あ、そと、立ってみると、	○						△	
C3-56	それは村か、都市か、人間が住んでいるところです。	○						△	
C3-57	犬は、あー、その村に、村か、都市かに向かって、あー、行きました。	○						△	
C3-58	犬はその道端で、その、その村の中の道端でえさを探していた。	○						△	

添付資料

C3-59	でも、どこからともなく、やってきた一人のおじさんが犬を追いかけてしまいました。	○						△	でも
C3-60	犬は、あー、どこへともなく、あー、一人で歩いてた。	○						△	
C3-61	突然、えーと、道で、一本の道で、一人の子どもが見えました。	○					△		突然
C3-62	その子どもはえさを手のひらにとっているように、その犬を呼んだ。	○						△	
C3-63	もう来て来て、とか呼んでいるようだった。		○					△	
C3-64	犬は、えさがあったと思って、			●				△	
C3-65	その、その男の子に近づい、き、近づきました。	○						△	
C3-66	しかし、その男の子に近づくと、	○						△	しかし
C3-67	その男の子はただの冗談を言っていた。		○					△	
C3-68	あー、実は男の子、手のひらにそのえさというものは全然ない。				○			△	実は
C3-69	男の子は手を背の、背の後ろにして	○						△	
C3-70	その犬を馬鹿にされました。			●				△	
C3-71	その犬は悲しそうに、どこへも行くことができなくて、		○					△	
C3-72	あー、孤独な存在に、本当に孤独な存在になってしまった。			●				△	
C3-73	この犬はまず人間に捨てられ、				○		△		
C3-74	それから、人間だ、だまされ、				○		△		それから
C3-75	自分をだましたのはあー、人間の中の、あー、				○		△		
C3-76	純粋的な子どもだというべきの子どもです。				○		△		
C3-77	うんー、あの一、悲しい物語ですね。				○		△		
C3-78	もう終わりです。				○		△		

添付資料

番号	発話	表現上の特徴				構造上の特徴			接続表現	
		描写	脚色			判断 に迷 う	大枠	設定		内容
			外面	内面	説明					
C4-1	昔、あるところに一匹の犬がいます。			○			△			
C4-2	ある日、一台の車がこのところを通り過ぎて、	○					△			
C4-3	犬はそれを見て車の後を追いかけてきました。	○						△		
C4-4	うんー、うんー、はし、はし、ずっと走って走って、	○						△		
C4-5	疲れて、疲れてました。		○					△		
C4-6	車の中の人はその犬を見て、	○						△		
C4-7	変だなと思いました。			●				△		
C4-8	うんー、それから犬は、えーと、ずいぶん疲れていて、		○					△	それから	
C4-9	車が遠くのところへ行くのを見てました。	○						△		
C4-10	うんー、それで、一人ぼっちになって、	○						△	それで	
C4-11	寂しくなりました。			●				△		
C4-12	うんー、あー、でもやっぱり、犬はあの車を探しだした いと思って、			●				△	でもやっ ぱり	
C4-13	うんー、道に立って、	○						△		
C4-14	車が来るのを待っています。	○						△		
C4-15	うんー、うんー、それから、一台の車が来るとき、	○						△	それから	
C4-16	えーと、この犬はいきなり道に走って、	○						△		
C4-17	真ん中に走って、	○						△		
C4-18	車の前に出ました。	○						△		
C4-19	うんー、車の運転手は大変びっくりして、	○						△		
C4-20	前の車にぶつかりました。	○						△		
C4-21	うんー、この交通事故で多くの車が倒れて、	○						△		
C4-22	人々は大変悲しかったです。			●				△		
C4-23	犬はこの場面を見て、	○						△		
C4-24	うんー、怖くなって、			●				△		
C4-25	えーと、うんー、ずっと、その、一時このところは大騒 ぎしました。	○						△		
C4-26	この犬はこれを見、振り向いて、	○						△		
C4-27	人々だんだん離れていくのを待ってました。	○						△		
C4-28	それから、犬は、またこのところはもとのところ、もど のとおり、もとのように静かになりました。		○					△	それから	
C4-29	うん、あ、朝も夜も、	○						△		
C4-30	天気のいい日も、	○						△		

添付資料

C4-31	雨の降る日も、	○						△	
C4-32	この犬は一人で寂しく歩いている。	○						△	
C4-33	うん、犬は道に歩いて、人のゴミを、うんー、ゴミ箱の ところでぶらぶらしたり、		○					△	
C4-34	人のところ、人のそばを通り過ぎたときも無視されたり、	○						△	
C4-35	人の邪魔になったこともあります。	○						△	
C4-36	この犬はとても寂しい犬です。			○				△	
C4-37	えー、ある日、一人の男の子が犬の前に来ました。	○					△		
C4-38	犬はその男の子に近づいて、	○						△	
C4-39	うんー、一生懸命か、嗅ぎました。	○						△	
C4-40	それで、この犬の物語です。			○		△			それで
C4-41	終わりました。			○		△			

添付資料

番号	発話	表現上の特徴				構造上の特徴			接続表現
		描写	脚色		判断 に迷 う	大枠	設定	内容	
			外面	内面					
C5-1	〇〇さん、うんー、これはうんー、かわいそうな犬の話かもしれないと思います。			○		△			
C5-2	話の中で、最初は、この犬は、あー、あー、家族旅行の間に、			○			△	最初は	
C5-3	あー、あーもともと、あーもとの家族に捨てられて、	○					△		
C5-4	あー、一生懸命、この犬は一生懸命走っていて、	○					△		
C5-5	あー追いつきたいですが、追いつけなかったんですが、		●				△		
C5-6	でも車のほうが、あー多かったから、	○					△	でも	
C5-7	この犬は、あー一生懸命走っても、	○					△		
C5-8	ずっと、あー、あー、追いつきませんでした。	○					△		
C5-9	あー、この、あー、家族の、あー、全員は、この犬の姿を見ていても、		○				△		
C5-10	あー、黙っていて、		○				△		
C5-11	ずっと黙っていて、		○				△		
C5-12	何もしてあげませんでした。	○					△		
C5-13	あー、この犬は、あー、走っていて、	○					△		
C5-14	やっと疲れました。		○				△	そして	
C5-15	そして、絶望、あー、絶望な犬は、あーあー、死ぬことを、に決めました。		●			△			
C5-16	彼は、あー、この犬は、あー、この犬は、あー、あー走ってきて、	○					△		
C5-17	あー、車にぶつかり、	○					△		
C5-18	あー、痛い、痛かったんですが、		●				△		
C5-19	でも、その車は、あー、この犬をよけて、	○					△	でも	
C5-20	でも、後ろからの車とぶつかって、	○					△	でも	
C5-21	事故になりました。	○					△		
C5-22	あー、この犬はこの様子を見て、	○					△		
C5-23	呆れて、		●				△		
C5-24	あー、あー、走っていきました。	○					△		
C5-25	あー、あー、この犬はずっと、あー、あー、以前の、もとの家族に帰りたいですが、		●				△		

添付資料

C5-26	あー、でもーあー、そして、あー、だから彼、あー、この犬は、あー、人間の姿を見て、	○						△	だから
C5-27	羨ましい、うんー、あー、羨ましい感じがしました。			●				△	
C5-28	あー、もし、あー、自分が人間と、あー、人間の家族の一員として、あーこの家族と、あー友達になればいいなと思っていました。			●				△	
C5-29	あー、日が暮れて、	○						△	
C5-30	あー、犬が、あー、川のそばに、そばに、あー、行きました。	○						△	
C5-31	この犬は自分の、あー、この湖の川にうつ、うつ、映られた自分の姿を見て、	○						△	
C5-32	あ、自分、自分を、自分が、あー、とてもかわいそうだと思います、思いました。			●				△	
C5-33	あー、この犬は、あー、走り続けて、	○						△	
C5-34	歩いて続けて、	○						△	
C5-35	うんー、うんー、多分、うんー、山に登って、	○						△	
C5-36	うんー、下の町を望みました、覗きました。	○						△	
C5-37	うんー、彼は、もう一度、うんー、町に帰りました。	○						△	
C5-38	でも、あー、みんな、あー、彼は、あー、もう一度、あー、もう一度人間と友達になりたかったんですが、			●				△	でも
C5-39	でも、みんなに嫌がれ、あー、嫌がれ、嫌がられました。	○						△	でも
C5-40	あー、この話の最後は、あー、この絶望の犬は、あー、最後、ある小学生みたい、あー、子どもに出会いました。		○					△	この話の最後は
C5-41	あー、彼はあー、友好的にこの犬を見てくれました。					○		△	
C5-42	あー、犬は、そのような、あー、あー、この小学生はこの犬に、あー、接近してきて、	○						△	
C5-43	あー、友好的な、あー、多分、この犬はこの子どもはとてもかわいそうだなと思って、			●				△	
C5-44	この犬に接近して、	○						△	
C5-45	あー、最後に、二人は友達になりました。		○					△	最後に
C5-46	あー、以上です。				○		△		

添付資料

番号	発話	表現上の特徴				構造上の特徴			接続表現
		描写	脚色		判断 に迷 う	大枠	設定	内容	
			外面	内面					
C6-1	今日は、あ、野良猫、野良犬、ごめんなさい、が、 飼い犬になった、そのこと、物語を話した、たい と思います。			○		△			
C6-2	もと、あー、昔あるところに、一匹の野良犬がい ました。			○			△		
C6-3	その野良犬がかい、あー、と、うんー、食べ物を探して、		○					△	
C6-4	自分の住んでいるところから、うんー道に出かけ ました。	○						△	
C6-5	突然、道から、車が飛んできて、	○						△	突然
C6-6	この犬をぶつかった。	○						△	
C6-7	犬は少し怪我がついた。		○					△	
C6-8	でも、体の傷より心の傷が大きい。		○					△	でも
C6-9	なぜかという、この犬は生まれて初めてこうい う乱暴な行動が、かん、行動にされたから。			○				△	なぜかとい うと
C6-10	この犬はその車の後ろ追いかけてましたが、	○						△	
C6-11	追って追って、	○						△	
C6-12	その車の運転手もその犬を注意しました。	○						△	
C6-13	でもその運転手、アクセス、ア、ク、セ、ル、全 開？	○						△	でも
C6-14	はいはい、逃げましたから、	○						△	
C6-15	その犬は遠吠えしかできなかったから、		○					△	
C6-16	犬の遠吠え。		○					△	
C6-17	それから、その犬は、復讐と、心を決めました。			●			△		それから
C6-18	復讐の方法を考えているうちに、			●				△	
C6-19	もう一つの車が近づいた。	○						△	
C6-20	その後ろにも車がたくさんあるのを見はらって、	○						△	
C6-21	この犬が突然、草の中から飛んできて、	○						△	
C6-22	車の、車の前から飛び出ました。	○						△	
C6-23	車の人が降りて助けを求めている状況を見て、	○						△	
C6-24	その犬は少し後悔しました。			●				△	
C6-25	ただ復讐するためと思ったのに、			●				△	
C6-26	こんなにひどい火事が起こったのは思いかけなか った事実です。			●				△	

添付資料

C6-27	それから、この事故が拡大して、	○					△	それから
C6-28	みんながこの車を助けるために、	○					△	
C6-29	いろんなところから駆けつけてくれました。	○					△	
C6-30	この犬は、自分が何か、すごい大きな事件を起こして、		○				△	
C6-31	心から反省して、			●			△	
C6-32	何かこれから、人々のために、うんー、自分の力を使いたいという気持ちが突然、沸いてきました。			●			△	
C6-33	そして、この犬が、自分のふるさと、自分の住んでいるところを、うんー、住んでいるところと別れの儀式をやって、					○	△	そして
C6-34	ほかのところに、うんー、出かけました。	○					△	
C6-35	つまり、人を探しに出かけました。				○		△	つまり
C6-36	人のためなら、その途中で、うんー、一對のペア？ 一對ですよ？ 一對の恋人同士と出会いましたが、	○					△	
C6-37	この犬はもし、この恋人同士の飼い主になったらいいなと思ったのに、			●			△	
C6-38	ずいぶんこの恋人同士の後ろについていました	○					△	
C6-39	でも恋人が、自分たちのラブストーリーに関心を注いでいるから、			●			△	でも
C6-40	犬を無視しました。		○				△	
C6-41	この犬は続けてほかのところにぶらぶら出かけました。	○					△	
C6-42	秋も、	○					△	
C6-43	あー、雨が来ても、	○					△	
C6-44	空が、えーと、雲ばかりの天気もあったし、	○					△	
C6-45	そして、とうとうまったく自分の行ったことのない、知らないところに来てしまいました。	○					△	そして
C6-46	これは一つの工場ばかりの町でした。	○					△	
C6-47	この犬は街中にぶらぶらしているから、	○					△	
C6-48	人に叱りつけたこともありました。	○					△	
C6-49	何でここにいるだろう、こういうおじちゃんの話聞いて、		○				△	
C6-50	犬は心細く逃げた、逃げてしまいました。		○				△	
C6-51	突然、ある日、一人の子どもが、放課後、自分のうちに帰る途中、		○				△	突然
C6-52	この犬と出会いました。	○					△	

添付資料

C6-53	この子どもは多分、成績があんまりよくないから、				○				△	
C6-54	いま、す、少しへこんでいました。			●					△	
C6-55	この犬は子どもの前しゃがんで、	○							△	
C6-56	子どももこの犬の前でしゃがみました。	○							△	
C6-57	犬と子どもがお互いを見て、	○							△	
C6-58	お互いの気持ちを読んでいるかのように見えました。		○						△	
C6-59	そして、子どもが犬に近づいて、	○							△	そして
C6-60	微笑んでいました。		○						△	
C6-61	犬も子どもに答えて同じ表情を作りました。		○						△	
C6-62	それから、この犬がだんだん人懐こし、人懐こく なって、	○							△	それから
C6-63	うんー、子どもの懐に飛び込んできました。	○							△	
C6-64	子どもは喜んで犬を受け入れました。		○						△	
C6-65	そして毎日毎日、この犬と子どもが仲良く、一緒 に遊んで、		○						△	そして
C6-66	一緒に帰ります。		○						△	
C6-67	そして永遠の友達、飼い主と飼い犬の関係になり ました。				○				△	そして
C6-68	以上です。				○		△			
C6-69	ありがとうございました。				○		△			

添付資料

番号	発話	表現上の特徴				構造上の特徴			接続表現	
		描写	脚色			判断 に迷 う	大枠	設定		内容
			外面	内面	説明					
C7-1	これから話すのは、ある、アンジュールという犬の物語です。			○		△				
C7-2	アンジュールは、その一、年をとったから、			○			△			
C7-3	ご主人が捨てられて、	○						△		
C7-4	その主人の一家は遠いところへ、砂漠かな？私の想像ですけど、			○				△		
C7-5	あー、捨てられました。	○								
C7-6	アンジュールは一生懸命車を追っても、	○						△		
C7-7	追いつかない、追いつかないんです。	○						△		
C7-8	でもやはり、あー、このアンジュールは小さいの主人の子どもはすごく好きで、			●				△	でも	
C7-9	会いたいので、			●				△		
C7-10	一応迷いながらあの家に戻ります、戻りました。				○			△		
C7-11	ある日、アンジュールが道路を渡るとき、	○					△			
C7-12	あー、車が来るのにもかかわらず、	○						△		
C7-13	道路を渡りました。	○						△		
C7-14	そのとき、あー、一台の車がアンジュールをよけるために、	○						△		
C7-15	向こうから来た車とぶつかって、	○						△		
C7-16	交通事故を起こりました、あー、起こしました。	○						△		
C7-17	そして大騒ぎになって、	○						△	そして	
C7-18	人も、たくさん人影がしました。	○						△		
C7-19	アンジュールはすごくびっくりしまして、			●				△		
C7-20	そして自分の犯した罪に後悔しました。			●				△	そして	
C7-21	そして、うんー、その大きな道路を避けて、	○						△	そして	
C7-22	一人で、うんー、また旅に立ちました。	○						△		
C7-23	走っている間に前に二人の姿が現しました。	○						△		
C7-24	ご主人かな？通って行ってみ、見れば、			●				△		
C7-25	人違いだと分かって、			●				△		
C7-26	悔しくて、			●				△		
C7-27	神様のいたずらだと思いました。			●				△		
C7-28	うんー、それから、また一人ぼっちの旅立ちに、うんー、しました。	○						△	それから	
C7-29	太陽は、昇っては沈む、沈み、	○						△		

添付資料

C7-30	あー、アンジュールはやっご主人のいる町並みに帰りました。	○						△	
C7-31	でも、家に帰るとご主人たちは、いないので、		○					△	でも
C7-32	外に出て探してみると、	○						△	
C7-33	掃除するおじさんの指示で、	○						△	
C7-34	主人さん、また子どもを見つけました。	○						△	
C7-35	うんー、アンジュールはすごくうれしくて、			●				△	
C7-36	子どもたちと遊びに行きました。		○					△	
C7-37	子ども、あー、子どもはももとはアンジュールを捨てていることをすごく悲しんでいるから、			●				△	
C7-38	アンジュールを見てもう、うれしくて、			●				△	
C7-39	一緒に遊びに行きました。		○					△	
C7-40	終わりです。				○		△		

添付資料

番号	発話	表現上の特徴				構造上の特徴			接続表現	
		描写	脚色			判断 に迷 う	大枠	設定		内容
			外面	内面	説明					
C8-1	この絵本はあの一、一匹の犬についての物語です。			○		△				
C8-2	えーと、この犬はずっと、うんー、一人のうんー、男の子に可愛がられていて、		○				△			
C8-3	あの一、うんー、あー、しかし、ある日、この、えー、			○			△			
C8-4	あの男の子は何かが原因で、			○			△			
C8-5	あー、えーと、親、ご両親に連れられて、		○				△			
C8-6	あの一、ほかのところに行くことになって、な、なりました。		○				△			
C8-7	えーと、そして、その犬はその男の子が旅立った日、		○					△	そして	
C8-8	その犬はずっと、そのあー、車を追っていました。	○						△		
C8-9	えーと、その男のお父さんは、男のお父さんは、その一、犬は車を追っているのに気がついたけど、			●				△		
C8-10	うんー、犬が疲れたら追って来ないだろうと思って、			●				△		
C8-11	えーと、スピードを出して、	○						△		
C8-12	車を早く飛ばしました。	○						△		
C8-13	うんー、犬は、うんー、追っても追っても、	○						△		
C8-14	あの、おい、追い越すことはできませんでした。	○						△		
C8-15	そして、その車がだんだん見えなくなりました。	○						△	そして	
C8-16	うん、その犬は、えーうんーまだ、えー、この男の子がもういないから、		○					△		
C8-17	多分あの、うんー、悲しいし、とか、			●				△		
C8-18	あの一、うんー、道の、そ、そ、道路のそばで、えーと、ずっと車が通るのを待っていた。	○						△		
C8-19	うんー、そして、えーと、うんー、人、あの、一台の、一台の車がこっちに向かってきて、	○						△	そして	
C8-20	その犬は、うんー、突然、飛び出してきて、	○						△		
C8-21	その、うんー、運転手さんは、えーと、驚いて、	○						△		
C8-22	急に、ハンドルを切って、	○						△		
C8-23	そしてあの、向こうから走ってきた車とぶつかりました。	○						△	そして	
C8-24	うんー、そして、後ろの車のあの、あるスピードが速いから、	○						△	そして	

添付資料

C8-25	追突事故になりました。	○						△	
C8-26	うんー、そして、多くの人が集まってきて、	○						△	そして
C8-27	うんー、大騒ぎになりました。	○						△	
C8-28	うんー、その犬は、えーと、うんー、この様子を見て、	○						△	
C8-29	えーと、その場を離れていきました。	○						△	
C8-30	うんーそして、うんー道路のそばでおしっこ、うんー、しました。	○						△	そして
C8-31	えーと、そして、彼は、まー、その犬は、あの一ずっと、うんー道のそとで待って、そばで待って、	○						△	そして
C8-32	あの一ふた、二人の、二つの人影を見て、	○						△	
C8-33	多分あの一、うん、飼い主が帰ってきたかなと思って、			●				△	
C8-34	その、うんー、二つの人影を見詰めていました。	○						△	
C8-35	えー、しかし、しかし、その、えーと、二人は、うんー、その犬の飼い主じゃなく、	○						△	しかし
C8-36	その犬はうんー、えー、悲しくて、			●					
C8-37	あの一、大声で吠えました。		○					△	
C8-38	そして、あー、犬は、うんー、自分の飼い主、うんー見つけることはできなくて、	○						△	そして
C8-39	たぶん家にも帰りたく、帰りたくなくて、			●				△	
C8-40	えーと、ずっと、あー、ずっと、道をうろうろしていました。		○					△	
C8-41	そしてある日、日が暮れて、	○						△	そして
C8-42	犬はあきらめて、			●				△	
C8-43	家に帰ることにしました。			●				△	
C8-44	犬は、あの一、家に帰って、	○						△	
C8-45	えー、その一、犬はあの一、大都会にあって、	○						△	
C8-46	その、犬は家に帰ったけど、	○						△	
C8-47	もう、うんー、あの飼い主はもう、い、いなくなりました。	○						△	
C8-48	そして、うんー、突然、一人のおじさんが犬に向かって、	○						△	そして
C8-49	えーと、男の子が帰ってきたよと、		○					△	
C8-50	うんー、うんー、ゆび、一つの方向に指差して、	○						△	
C8-51	あの犬に言いました。	○						△	
C8-52	そして犬は、うんー、早くその方向へ向かって走っていきました。	○						△	そして

添付資料

C8-53	男の子のそばには一つのバックが置いてありました。	○						△	
C8-54	多分、男は、あの一、もう、あの犬が惜しくて、			●				△	
C8-55	犬を惜しんで、			●				△	
C8-56	あの一、え一、あの犬から離れたく、なくて、			●				△	
C8-57	え一、帰ってきたと、帰ってきました。	○						△	
C8-58	え一と、それに、は、え一、はじ、はじめのときは、多分、何か、え一何が起こったかわからなくて、			●				△	それに
C8-59	うんーただあそこに屈んで、	○						△	
C8-60	その男の子も見詰めていました。	○						△	
C8-61	そして、男の子はひざをまっ、ひざを曲げて、	○						△	そして
C8-62	犬に向かって、うんー、何か、なんか話、多分、こっちに来いと言って、		○					△	
C8-63	そして、しかし、その犬はただ、そこに、あ一、そこに座って、	○						△	しかし
C8-64	あ一、うんー、一歩も、うんー、動いていなかった。	○						△	
C8-65	あ一、そして、その男の子が、あの一、あ一、犬に近寄って、	○						△	そして
C8-66	やさしい、やさしい顔して、		○					△	
C8-67	え一、どうしたのって言い、犬に聞いて、		○					△	
C8-68	うんー、そして、え一と、この犬は、ず一、じっとしていて、	○						△	
C8-69	その男の子は犬は、犬になんかあったのかと思って、			●				△	
C8-70	男の子が心配になりました。			●				△	
C8-71	うんー、うんー、しかし、うんー、そして、あの一、うんー、突然その犬はうんー、男の子に、うんー近寄って、	○						△	そして
C8-72	甘えていました。	○						△	
C8-73	え一と、その犬は男の子が帰ってきてくれたのが、うんー、とてもうれしかったです。			●				△	
C8-74	はい、以上です。				○		△		

添付資料

番号	発話	表現上の特徴				構造上の特徴			接続表現	
		描写	脚色			判断 に迷 う	大枠	設定		内容
			外面	内面	説明					
J1-1	この本の内容は、えーと、一匹の犬が最初出てくるんですけど、				○			△		
J1-2	その犬があの一、車に乗っていたんですけど、					○		△		
J1-3	車から追い出されてしまうんですね。	○							△	
J1-4	で、そのまま、あの一、一匹だけ残されてしま って、	○						△	で	
J1-5	で、とても寂しくなってしまう。			●					△	で
J1-6	なんだけど、えーと、もう一台その道路から 車が入ってきて、	○							△	なんだけど
J1-7	で、その車の前にびゅんと出てきて、	○							△	で
J1-8	あの一、その車の前に入ります。	○							△	
J1-9	で、その車の、で、その車はその犬をよけるん ですけれども、	○							△	で
J1-10	その犬に気を取られていたせいで、			●					△	
J1-11	もう一台前から車が出てきたことに気づかず、 と、		○						△	
J1-12	その、犬をよけた車とその前から走ってきた対 向車がぶつかってしまいます。	○							△	
J1-13	で、そのまま、その事故のせいで	○							△	で
J1-14	後にどんどん車が渋滞していってしまいます。	○							△	
J1-15	で、犬はその場から逃げて、	○							△	で
J1-16	で、今度は商店街のほうに行きます。	○							△	で
J1-17	で、商店街をとことこ歩いていたら、	○							△	で
J1-18	えーと、子どもに最後出会って、	○							△	で
J1-19	子どもに相手をしてもらって、					○			△	
J1-20	で、ちょっと犬は幸せな気持ちになります。			●					△	で

添付資料

番号	発話	表現上の特徴				構造上の特徴			接続表現	
		描写	脚色			判断 に迷 う	大枠	設定		内容
			外面	内面	説明					
J2-1	大きな道路を車が通っていきました。	○						△		
J2-2	車から一匹の犬が捨てられてしまいました。	○						△		
J2-3	道路に投げ出された犬は一生懸命車を追いかけて	○						△		
J2-4	ましたが、									
J2-4	車は猛スピードで走っていきました。	○						△		
J2-5	それでもなお、犬は必死に飼い主の車を追いか				○			△	それでもな	
J2-6	ましたが、								お	
J2-6	結局犬は飼い主の車を見失ってしまいました。				○			△	結局	
J2-7	犬は、広いところにただ一匹置いていかれました。	○						△		
J2-8	犬は飼い主の匂いを必死に探していました。				○			△		
J2-9	そして犬は飼い主の匂いを探しながら、				○			△	そして	
J2-10	また大きな道路に出てきました。				○			△		
J2-11	その道路には車がたくさん走っていました。				○			△		
J2-12	犬は飼い主の匂いを追いかけて、		○					△		
J2-13	車道に飛び出しました。	○						△		
J2-14	犬は車道を走っていた車に引かれそうになりまし	○						△		
J2-15	た。									
J2-15	しかしその車は急ブレーキをして、	○						△	しかし	
J2-16	犬をよけました。	○						△		
J2-17	そ、その瞬間よけた車と、よけた車と走ってきた	○						△	その瞬間	
J2-18	車が激突しました。									
J2-18	車は横転し、	○						△		
J2-19	犬は、犬もそれに気づきましたが、	○						△		
J2-20	犬は、犬は車の事故を見て、	○						△		
J2-21	呆然としていました。			●				△		
J2-22	事故には何台もの車が巻き込まれ、		○					△		
J2-23	火、火の手が昇っていました。	○						△		
J2-24	ほかの車からは多くの人が出てきて、	○						△		
J2-25	みなその惨事を見て、	○						△		
J2-26	口々に叫んでいました。	○						△		
J2-27	その車の、で、その車、に、人々は駆け寄り	○						△		
J2-28	事故に、な、を起こした車から人を助けようと			●				△		
J2-29	必死に動いていました。		○					△		
J2-30	犬はその惨事の様子を呆然と、見ながらも、		○					△		

添付資料

J2-31	それを何事もなかったように			●				△	
J2-32	走り去ってゆきました。	○						△	
J2-33	犬はまだただ孤独に荒野を走っていると、		○					△	
J2-34	遠くに二つの人影を見つけました。	○						△	
J2-35	犬はその人影を見つけて	○						△	
J2-36	飼い主かと思い、			●					
J2-37	近くに走りよって行きました。	○						△	
J2-38	しかし、近くによって見ると、	○						△	しかし
J2-39	それは飼い主ではありませんでした。		○					△	
J2-40	犬はまだまだ一匹取り残されて、	○						△	
J2-41	一人さびしそうに荒野を歩いていました。					○		△	
J2-42	犬は寂しさからか、			●				△	
J2-43	大空に向かって吠えました。	○						△	
J2-44	犬はただ孤独に広い野原を走って行きました。			●				△	
J2-45	時には山の近くを走り、	○						△	
J2-46	時には海岸沿いも走りました。	○						△	
J2-47	そして犬はまだ広い道路に、をとぼとぼ歩いてい ました。	○						△	そして
J2-48	犬は飼い主の家に帰ろうとしたのか			●				△	
J2-49	町中に入って行きました。	○						△	
J2-50	犬は街中の路地や、を一人とぼとぼ歩いていき ました。	○						△	
J2-51	そして飼い主の匂いを必死に探していました。		○					△	そして
J2-52	そして犬は、一人の男性から飼い主の家を教えて もらいました。					○		△	そして
J2-53	すると、その、その方向に走っていくと、		○					△	すると
J2-54	そこには犬を捨てた飼い主の男の子が犬のかごを 持って、	○						△	
J2-55	一人たたずんでいました。	○						△	
J2-56	犬とその少年はずっと見詰め合ったまま立ってい ました。	○						△	
J2-57	そして少年は犬のもとに駆け寄り、	○						△	そして
J2-58	悲しそうな顔をしながら犬のもとに駆け寄って行 きました。			●				△	
J2-59	そして少年は泣きながら、泣きながら	○						△	そして
J2-60	犬と見詰め合い、		○					△	
J2-61	そして犬も飼い主の少年と出会って、		○					△	
J2-62	たの、よろ、うれしそうに飼い主の少年に駆け寄	○						△	

添付資料

	って行きました。								
J2-63	飼い主の少年も犬を抱きしめました。		○					△	
J2-64	終わり。			○		△			

添付資料

番号	発話	表現上の特徴				構造上の特徴			接続表現
		描写	脚色		判断 に迷 う	大枠	設定	内容	
			外面	内面					
J3-1	アンジュールという名前の犬のお話です。		○			△			
J3-2	アンジュールは、お父さんとお母さんと息子という構成の三人家族のおうちで飼われていました。		○				△		
J3-3	そ、ある日、その三人家族はアンジュールを連れて旅行に出たんですけども、				○		△		
J3-4	旅行に出た帰り道にアンジュールがあまりにも騒ぐので、				○		△		
J3-5	お父さんはそのアンジュールがいやになって、				○		△		
J3-6	途中で捨ててしまいます。	○						△	
J3-7	で、息子はひどく悲しんだんですけど、			●				△	で
J3-8	アンジュールはそれ、捨てられたまま、				○			△	
J3-9	その家族を追いかけました。	○						△	
J3-10	でもお父さんお母さんは車なので、	○						△	でも
J3-11	アンジュールは追いつけるはずもなく、	○						△	
J3-12	遠くへ去ってしまいました。	○						△	
J3-13	で、アンジュールは匂いを頼りに、	○						△	で
J3-14	何もない砂漠のようなところを、えー、家族を求めて探し続けました。	○						△	
J3-15	そして似ているような車があると近づいていて、		○					△	そして
J3-16	自分の家族で、飼い主ではないかと。			●				△	
J3-17	そしてある時、すごく似たような車が通って、		○				△		そして
J3-18	アンジュールは自分の飼い主だと思って、			●			△		
J3-19	近づいていきました。	○						△	
J3-20	すると、その車は実は違う人の車で、				○			△	すると
J3-21	アンジュールが飛び出したことによって、びっくりして、					○		△	
J3-22	えー、運転を誤ってしまい、					○		△	
J3-23	事故を起こしてしまいました。	○						△	
J3-24	で、その事故によって、	○						△	で
J3-25	えー、ひどくけが人が出て、	○						△	
J3-26	アンジュールはそのことにとても驚きましたが、			●				△	
J3-27	何もすることができず、	○						△	
J3-28	ひたすらまた砂漠のような道を、家族を探しにさまよいました。		○					△	

添付資料

J 3-29	そしてさまよっているうちに		○				△		そして
J 3-30	遠くに家族が見えたような、		○				△		
J 3-31	それがその砂漠のような町の蜃気楼で、幻でした。		○				△		
J 3-32	それでもアンジュールは諦めずに、	○						△	それでも
J 3-33	えー、自分の家族、飼い主を探し続けました。	○						△	
J 3-34	そしてついに、遠くに町を発見して、				○			△	そして
J 3-35	そこに向かえば家族が会えると思い、			●				△	
J 3-36	アンジュールはそこに向かってひたすら歩き続けました。			●				△	
J 3-37	で、アンジュールはその町に着いて、	○						△	で
J 3-38	小さな路地を通ったり、	○						△	
J 3-39	カフェの前を通ったり、	○						△	
J 3-40	そのの、そこにいるお店の人に聞いたりして、	○						△	
J 3-41	家族を探し続けました。		○					△	
J 3-42	そしてついに、その家族の息子だった男の子に出会い、	○						△	そしてついに
J 3-43	アンジュールは、えーと、会うことができました。	○						△	
J 3-44	おしまいです。				○		△		

添付資料

番号	発話	表現上の特徴				構造上の特徴			接続表現	
		描写	脚色			判断 に迷 う	大枠	設定		内容
			外面	内面	説明					
J4-1	えーと、ある犬がありました。			○			△			
J4-2	その犬は小さいごろから大切に育てられてきたんですけど、			○			△			
J4-3	だいぶ大きくなって、			○			△			
J4-4	飼い主のほうがお世話をするのがちょっと億劫になってきちゃって、			○			△			
J4-5	で、その犬が捨てられてしまいました。	○						△	で	
J4-6	車でどこか遊びに連れて行ってくれるって思ったのに、			●				△		
J4-7	道路の真ん中に、誰もいないところに捨てられてしまって、			●				△		
J4-8	で、その犬はまー、わけも分からず、			●				△	で	
J4-9	車について走っていったんですけど、	○						△		
J4-10	車に、まー、間に合うわけもなく、	○						△		
J4-11	まー、見失ってしまいました。	○						△		
J4-12	で、犬は家族の乗ってる車を探そうと、				○			△	で	
J4-13	必死にいろんなところ、匂いを嗅いだりしていくんですけど、	○						△		
J4-14	なかなか見つかりません。	○						△		
J4-15	で、途方に暮れてしまった犬はですね、		○				△		で	
J4-16	まー、いろんな車が通っているのでもその中に自分の家族がいるんじゃないかなと思って、			●				△		
J4-17	えー、道に飛びだったりしてしまって、	○						△		
J4-18	で、でもやっぱり自分の家族の車を見つからずに、	○						△	で	
J4-19	逆にこうちょう、交通渋滞とか、事故とかを起こしてしまう結果になってしまって、	○						△		
J4-20	で、犬はちょっと悲しい思いをするんですけども、			●				△	で	
J4-21	それでもやっぱり家族のことが大切に思っていて、			●				△	それでも	
J4-22	心配で、			●				△		
J4-23	後、家族に会いたいという気持ちで、			●				△	あと	
J4-24	この犬は家族のことを探し続けます。				○			△		
J4-25	それですね、いろんなところに行って、	○						△	それです	

添付資料

									ね
J4-26	何度も吠えたりして、				○			△	
J4-27	まー、自分の家族を探すんですけども、				○			△	
J4-28	また、全然、なかなか				○			△	
J4-29	見つからないんですね。				○			△	
J4-30	で、ずっと歩いていっているうちに、町までたどり着きます。	○						△	で
J4-31	郊外に捨てられたんですけど、		○					△	
J4-32	町までたどり着いて、	○						△	
J4-33	家族を探すんですけど、		○					△	
J4-34	なかなか見つかりません。				○			△	
J4-35	で、まー、途方に暮れながらも歩いていると、		○					△	で
J4-36	あの一、一人の男の子に出会います。	○						△	
J4-37	で、その男の子、最初はちょっと犬に興味があって近づいてきてくれるんですけど、	○						△	で
J4-38	で、そのときに、この犬どうしたのかなっていうふうにすごく犬のことを思いやってくれるいい男の子で、		○					△	で
J4-39	で、最後には、まー、その男の子がこの犬のことをかわいそうに思って、			●				△	で
J4-40	で、その犬もその男の子のやさしい気持ちに飼い主に伝わって、		○					△	で
J4-41	で、最後は、この男の子のもとに行くというお話しです。		○				△		で

添付資料

番号	発話	表現上の特徴				構造上の特徴			接続表現	
		描写	脚色			判断 に迷 う	大枠	設定		内容
			外面	内面	説明					
J5-1	何もない寂しいところで車から犬が捨てられてしま います。	○					△			
J5-2	それで、えーと、車はその何もないその寂しいとこ ろからどんどん去って行ってしまいうんですが、				○			△	それで	
J5-3	犬は車を追いかけます。	○						△		
J5-4	えーと、車はどんどん遠くなっていくけれど、	○						△		
J5-5	犬はすごい速さで、一生懸命車を追いかけます。	○						△		
J5-6	でも車はすごい早いスピードで遠くに行ってしまう ので、	○						△	でも	
J5-7	とうとう犬はあきら、追いかけるのを諦めます。	○						△		
J5-8	それで、その自分が捨てられた寂しい何もない場所 でとぼとぼさまよって、	○			○			△	それで	
J5-9	あたりをうろうろしています。				○			△		
J5-10	そうするとそのうちに車が来ます。	○						△	そうすると	
J5-11	その犬は車を飼い主の乗っている車と思ったのか、			●			△			
J5-12	その車に向かって走っていきます。	○						△		
J5-13	車に乗っている人は犬が飛び出してきたので、	○						△		
J5-14	驚いて、			●				△		
J5-15	えーと、スリップして、	○						△		
J5-16	事故を起こしてしまいます。	○						△		
J5-17	それで車は事故を起こして、	○						△	それで	
J5-18	えーと、ひっくり返ってしまって、	○						△		
J5-19	燃えてしまって、	○						△		
J5-20	えーと、それを見て、	○						△		
J5-21	犬はとてもびっくりしているんですが、			●				△		
J5-22	そうしている間に救急車が来たり、				○			△		
J5-23	えーと、消防車が来たり、				○			△		
J5-24	人がどんどん集まってきて、	○						△		
J5-25	大騒ぎになってしまいます。	○						△		
J5-26	だから犬はほんとに驚いて、			●				△		
J5-27	悲しそうな顔して、		○					△	だから	
J5-28	その自分が捨てられた場所からまた立ち去ってし まいます。	○						△		
J5-29	えーと、それでそのままずっといろいろなところを	○						△	それで	

添付資料

	さまよって、								
J5-30	うろうろしていると、	○					△		
J5-31	遠くに人影が見えたので、	○						△	
J5-32	犬は一瞬ちょっとうれしそうな感じになるんですが、			●				△	
J5-33	その人影がすぐに消えてしまいます。		○					△	
J5-34	それでまたまたまたさまよいはじめ、	○						△	それで
J5-35	えーと、海に行ったり、	○						△	
J5-36	うんーと、町中を歩いたり、	○						△	
J5-37	その一、お店の裏のゴミ箱をあさるような感じになったり、		○					△	
J5-38	本当に野良犬としてとぼとぼ、えーと、町中をさまよっています。		○					△	
J5-39	そうしている間に、道の向こうに一人の少年が見えます。	○						△	そうしている間に
J5-40	えーと、少年はにっこり笑っていたので、	○						△	
J5-41	その少年に少しずつ犬が近づいて行って、	○						△	
J5-42	少年も近づいてきて、	○						△	
J5-43	それで最後はその犬に、	○						△	それで
J5-44	あ、その少年に犬は尻尾を振って、	○						△	
J5-45	それで甘える仕草をして、	○						△	それで
J5-46	お話は終わりです。				○		△		

添付資料

番号	発話	表現上の特徴				構造上の特徴			接続表現	
		描写	脚色			判断 に迷 う	大枠	設定		内容
			外面	内面	説明					
J6-1	えーと、ある、一匹の犬が飼い主から車の中か ら捨てられてしまいました。	○					△			
J6-2	それで犬は悲しさと怒りで、			●				△	それで	
J6-3	その車を一生懸命追って、	○						△		
J6-4	飼い主のところを戻ろうとしました。			●				△		
J6-5	でもいくら追っても、	○						△	でも	
J6-6	車には追いつきません。	○						△		
J6-7	飼い主も車から後ろを見て、	○						△		
J6-8	犬がもう追ってこないかなと思ったところで、			●				△		
J6-9	もう遠くに行ってしまいました。	○						△		
J6-10	それでも犬は一生懸命追うけれども、追う、追 うけれども、	○						△	それでも	
J6-11	やっぱり車には追いつかなくて、	○						△		
J6-12	結局諦めて、	○						△	結局	
J6-13	とぼとぼと一人で歩いていました。				○			△		
J6-14	そんなときにちょうど、犬の後ろのほうから車 は何台かやってきて、				○			△		
J6-15	えーと、悲しみでどうしようもできなくなった 犬は何か起こそうと思って、			●				△		
J6-16	その車の前に飛び出してしまいました。	○						△		
J6-17	それで犬をよけようとした車はハンドルを切 って	○						△	それで	
J6-18	前の車と衝突して、	○						△		
J6-19	大惨事になってしまいました。	○						△		
J6-20	犬はどうしようとも思ったけれども、			●				△		
J6-21	どうし、どうすることもできなくて、			●				△		
J6-22	結局後ろ振り返りつつも、	○						△	結局	
J6-23	その場から逃げてしまいました。	○						△		
J6-24	そのまま犬は当てもなく走っていったところ で人影が二人見えたので、	○						△		
J6-25	思わず立ち止まりました。				○			△		
J6-26	犬はその二人を飼い主ではないかと思って、			●				△		
J6-27	大きな声で叫んでみたけれども、	○						△		
J6-28	何も反応がなかったので、		○					△		

添付資料

J 6-29	結局また当てもなく一人、一匹でとぼとぼと当てもなく歩いていきました。	○						△	結局
J 6-30	で、犬は犬の着いた先が住宅街の中だったんだけど、	○						△	で
J 6-31	結局そこには飼い主がいなくて、		○					△	結局
J 6-32	また、次の知らない道をどんどん進んでいきました。				○			△	また
J 6-33	すると、一人ぼっちの少年に出会いました。	○						△	すると
J 6-34	その少年は自分のほうに寄ってきてくれて、	○						△	
J 6-35	心配そうな目で自分のほうを見てくれました。		○					△	
J 6-36	そして犬は、この少年ならきっと自分を受け入れてくれるだろうと思って、			●				△	そして
J 6-37	その少年のそばによって、		○					△	
J 6-38	仲良くなってほしいという思いを少年のほうに向けました。			●				△	
J 6-39	以上です。				○		△		

添付資料

番号	発話	表現上の特徴				構造上の特徴			接続表現	
		描写	脚色			判断 に迷 う	大枠	設定		内容
			外面	内面	説明					
J7-1	えーと、まず一匹の犬が飼い主の一家とドライブ をしていたんですけど、		○				△		まず	
J7-2	途中でその飼い主の人たちに犬が捨てられてし まって、	○						△		
J7-3	で、捨てられて、	○						△	で	
J7-4	その車はどんどん遠く去って行くんですけど、	○						△		
J7-5	その犬は一生懸命その飼い主の乗ってた車を追 いかけます。	○						△		
J7-6	で、全然追いつかないんですけど、	○						△	で	
J7-7	ひたすら止まることなく、	○						△		
J7-8	一生懸命犬は追いかけます。	○						△		
J7-9	えー、まったくもう車が遠く離れてしまって、	○						△		
J7-10	もう犬から何も見えなくなったところで犬は立 ち止まって、	○						△		
J7-11	そこからそのタイヤの跡とか、匂いとかを追っ て、				○			△		
J7-12	歩いていきます。	○						△		
J7-13	で、もうその犬の中、その犬の頭の中ではその追 いかけることしか考えてないので、			●				△	で	
J7-14	えーと、その匂いの後をたどろうとして、			●				△		
J7-15	急に道に飛び出してしまうんですね。	○						△		
J7-16	で、そこに、ちょうど車が来て、	○						△	で	
J7-17	で、その車に乗ってた人がその犬をよけようと して、	○						△	で	
J7-18	ハンドルを切るんですけど、	○						△		
J7-19	犬はまー、助かるんですけど、	○						△		
J7-20	そのハンドルを切った車と逆方向から来た車が 衝突してしまって、	○						△		
J7-21	事故が起きます。	○						△		
J7-22	で、まー、人はすごいみんな周りで騒いで、大騒 ぎしているんですけど、	○						△	で	
J7-23	で、犬はすごくなんか、自分のせいでそうなっ てしまったという思いで、			●				△	で	
J7-24	その現場をしばらく見詰めて、				○			△		

添付資料

J7-25	悲しそうに見詰めて、		○					△	
J7-26	そのあとまだ自分の飼い主を見つけるために、		○					△	
J7-27	その場を立っていきます。	○						△	
J7-28	で、一回、あの一、人が歩いてるところを見つけて追いかけるんですけど、	○						△	で
J7-29	その一、自分の飼い主ではないってことが分かって、			●				△	
J7-30	また悲しそうにえーと、一人というか、一匹になってしまいます。		○					△	
J7-31	で、えーと、すごく本当に悲しくて、			●				△	で
J7-32	もう当たりもそろそろ夕暮れ時で、えーと、夕日に向かって悲しそうに吠えたりとか、					○		△	
J7-33	その場面がありながらあたりをさまよい続けます。	○						△	
J7-34	その少年は自分のほうに寄ってきてくれて、	○						△	
J7-35	で、ひたすら歩いていたら、					○		△	で
J7-36	一軒の建物を見つけて、	○						△	
J7-37	えーと、その中に、その建物の中にいた人に「あっちに行ってください」みたいに言われて、		○					△	
J7-38	そっちのほうに建物の中通り過ぎて、					○		△	
J7-39	外に出てみたら、					○		△	
J7-40	そこに一人の女の子が立っていて、	○						△	
J7-41	でも、その女の子はその一、自分の飼い主一家、飼い主だった一家の子どもなんですけど、		○					△	でも
J7-42	えー、その子だけ、その一、仲が、すごく仲良かった、		○					△	
J7-43	ずっと自分を待ってたんですね。		○					△	
J7-44	で、無事再会できて、終わりという物語です。				○		△		で

添付資料

番号	発話	表現上の特徴				構造上の特徴			接続表現	
		描写	脚色			判断 に迷 う	大枠	設定		内容
			外面	内面	説明					
J8-1	えーと、これはある一匹の犬の物語です。		○			△				
J8-2	最初の場面は広い草原の中に一本の道が通 てるシーンですけれども、				○		△			
J8-3	そこで車が走ってきます。	○						△	そこで	
J8-4	それと、犬が一匹放り出されて、	○						△	それと	
J8-5	その一、置き去りにされてしまいます。	○						△		
J8-6	その犬は車をずっと追いかけるんですけれど も、	○						△		
J8-7	とうとう見失ってしまって、	○						△		
J8-8	一人ぼっちになってしまいます。	○						△		
J8-9	この犬は飼い主たちに捨てられてしまいまし た。				○			△		
J8-10	その犬はずっと飼い主たちの戻ってくるのを 待って、		○					△		
J8-11	道のそばに座ってます。	○						△		
J8-12	ふとした拍子に、道を渡ろうとしたところ、				○			△		
J8-13	車、それをよけようとした車が道を外れて、	○						△		
J8-14	ほかの車とぶつかってしまいます。	○						△		
J8-15	で、この事故は大火災を起こし、	○						△	で	
J8-16	大惨事になってしまいます。	○						△		
J8-17	その犬はその事故にびっくりして、			●				△		
J8-18	その現場から離れていきます。	○						△		
J8-19	その事故現場にはどんどん人が集まってき て、	○						△		
J8-20	大騒ぎになってますが、	○						△		
J8-21	犬はその現場から離れていきます。	○						△		
J8-22	しばらく歩いていると、	○					△			
J8-23	ある人影が見えます。	○						△		
J8-24	彼は飼い主だと思って、			●				△		
J8-25	近づきますが、	○						△		
J8-26	その人影は人に気づくことなく、		○					△		
J8-27	どんどん離れていきます。				○			△		
J8-28	彼は飼い主を夢見ていたのかもしれませんが。			●			△			
J8-29	彼は一人で歩き出します。	○						△		

添付資料

J8-30	どンドン歩いていくうちに、	○						△	
J8-31	海辺にやってきました。	○						△	
J8-32	海辺にも人の影を見つけます。	○						△	
J8-33	もしかしたら飼い主の男の子かもしれないと近づきますが、			●				△	もしかしたら
J8-34	それは消えてしまいました。	○						△	
J8-35	また犬はどンドン歩き出します。	○						△	
J8-36	すると、向こうのほうから煙が見えてきました。	○					△		すると
J8-37	それは工場の煙で、	○					△		
J8-38	彼は町に近づいてきたのです。	○					△		
J8-39	彼は町に迷い込み、	○						△	
J8-40	路地の中で暮らすようになりました。					○		△	
J8-41	誰からも相手にされることなく、					○		△	
J8-42	野良犬として日々を過ごすことになりました。					○		△	
J8-43	けれども、彼はずっと夢見ています。			●				△	けれども
J8-44	また飼い主の男の子が彼のもとに帰ってきてくれることを。			●				△	
J8-45	以上です。				○		△		

添付資料

日本語学習者データ (CJ9~CJ20)

CJ9

そうですね。これはかなり悲しい物語だと思います。

えーと、この犬は飼い主を、捨てられてしまいました。

えー、それで、えーこの犬は家に戻りたいと思っているから、

あの、飼い主の車に、あ、車を必死に追いかけています。

しかし、あの一、車のスピードはやはり犬のスピードよりずっと速いですから、

えーと結局犬はあの一間に合いない。

うんー、そして、この犬はもちろんとでも悔しいからもう一度試したいと思って、思っていますが、

うんーやはりあの一、車、あ一、か、飼い主の車はだんだん遠くなって、

えーと、結局、あの一、え、この犬は徹底的にあの一、飼い主を捨てられ、あ、飼い主に捨てられました。

えーと、捨てられてしまったあの一、しまった犬は、いったいどのぐらいあの一悲しいかえーと、私には考えられない。

えーと、えー、そして、その犬はいったい何を考えているのかはも分からない。

私がおかつ、分かるのは、この犬はきや、最後に自殺するつもりだ。

そ、道路にいきなり追い出し、追い出して、

えーと、車にふつかる？ふつかる、ようとしているけど、

えーと、運転、運転者はこの犬をよけるために、急に方向？変わってます。

そうすると、二つの車、二つの車がぶつかっています。

この犬は不意にえーと、交通事故を起こし、起こした。

えー自分のやったことをおどろかさ、驚かれた犬はえーと、えー自分がどんな悪いことをやったのか分かるかように現場に逃げ？逃げる。そ、逃げる。

後ろ、後ろのことは私には、実は私にはあの一ちょっと理解できないけど、

ただ、この犬はぼんやりして、

どこまで行けばいいのかも分からなくて、

えーと、一人きり歩いている。

えー、えー、そうすると、えー、そう、犬はどのぐらい悲しくて、寂しくて、

そしてなにを、あのいったい何をしたいのか、

この笑顔を見た限り私には理解できないけど。

えーと、そして、えー、そう、そうですか、そして、たぶん、この犬は自分の気力によって、自分の家にさが、さがす？探すつもり、

だから、ある日、自分の、自分の飼い主の息子に会った。

えー、その後ろの、えー、なに、後ろのことはぜんぜん分からないから、

そう、たぶん、そういう物語だと思います。

えーと、実はこの絵本を始めて見た時、えーと、後ろの状況？状況を知りたいから、速くて、えー、速くて見た。

しかし、全部、全部えーと、見終わってから、

何をい、作者は何を言いたいかかえて、分からない、分からなかった。

えー、でも、私にとって、それは、その絵本は全然面白くないと思ってます。

悲しいだけ、もし、自分に、えー、悲しいことを興味ない人は、その絵本は一なに？見なくてもいいです。

いいと思います。

添付資料

CJ10

では、はじめさせていただきます。

まず、言っておきたいのですが、この絵本はたぶん、私の理解がちょっと間違っているかもしれないです。

ふだんはあまり絵本を見ないので、たぶんそれなりの理解力がないと思いますが、

私の考えでは、はい。そうです。

えーある日一匹の犬が飼い主に捨てられました。

うーん、その犬が、うんー、そ、吠えながらその飼い主の車を追ひ、追いかけてました。

うーん、その飼い主が、えー、たぶん未練があつて、

振り返ってみましたが、

やっぱり、決心、うんー、たぶん引越しのため？

その一、その一、飼い主をえーこの一、その犬を捨てなければならないので、

スピードを上げました。

その犬はなかなかその車に追えなくて、

うんー、追えないですが、

諦めない、なかなか諦めないで、

ずっと、うんー、その匂い、その車の匂いで、うーん、その飼い主を探し続けました。

うんー、やっと道に、うーん、何台の車が走ってきて、

その一犬が匂いで、その、え、たぶん、その飼い主、そのご主人の車だなど思いましたが、

いつの間にか、その道の真ん中に、うーん、はる、歩きました。え、たどり着きました。

そのせいで、うーん、ふた、二台の車がぶつかりました。

うーん、遠くの人がみんなその犬のせいになっているみたいで、

その犬も申し訳なさそうな目つきでふりかえ、うんー返りました。

うんー、と、その後、またその犬は、え、何箇所も探してて、その後主人を探し続けました。

やっと住宅地にたどり着いて、

うーん、また人々の姿も現れ、

たぶんうーん、そのすぐ飼い主に会えるかなと思って、

その犬が探し続けました。

えー、ある日、道で、そのご主人、たぶんご主人と思いますが、

その飼い主の姿が現れました。

えー、そのご主人は感動して、

まさかその犬が、うーん、ここまで追いかけてくれとは思わなかった。

うーん、やっと、その犬とそのご主人と再会できました。

えーたぶんその一、ほかの人かもしれません。たぶん新しい人かもしれませんが私の理解では、たぶん元ご主人のところにたどり着いたと思います。

はい。以上です。終わりです。

添付資料

CJ11

そうですね。あの一、あの一、あ一一、あの日犬が自分の主人にあの一、車の中から捨てられた。
えーと、その犬が、あの一、車を追い続けて、
でもその車が、その一速度がとても速いのです、でした。
でもその犬はずっと一生懸命、あの一、追いかけた。
でも、犬は走ればあの一、走るほど犬はあの一、疲れてきた。
で、その一、車の中の人振り返る時、犬の姿もあまり見えなくなった。
あの一、でもその犬は、その犬はまだ、あ、その犬はまだ諦めていないが、
もう走ろうとしても、あの一、走れられないんだ。
あの一、その一、犬はあの一、とても悔しくて、悲しくて、
あの一、えーと一、あの一、そのところで歩いて回った。
彼はここで待ってたら、いつかは主人が迎えてくるでしょうと思っていた。
えーと、ある日彼はその道に自分の家のあの一、車みたいな車を見かけた。
その車を止めるために、その犬が車の前に飛び出して行った。
しかし、その一、運転者がびっくりした上、
その一、犬をぶつけないように急に右のほうへ曲がった、曲がって、
あの一、向こうの車の、車とぶつかってしまった。
うーん、大変な事故になった。
でも周りの人が全部こちらに走ってきて、
犬がとても怖くて、
ここからあの一、逃げた。
えーと、うん一、たぶん主人はもう来ないでしょうと思っていた犬は、その一、流浪な生活を始めた。
え一、彼はいろんなところを回って、
野良犬のように見えた。
でも、時々自分の主人に似ている人を、なんか見えて、あの一、懐かしく思った。
えーと、彼はある日、あの一海に行った。
あの一、砂浜に沿って歩いたり、
あの一、叫んだりしていた。
広い海に帰って一人ぼっちで立ち続けて、
あの一、えーと、とても、としも寂しく感じました。
えーと、一人じゃだめ、新しい主人を探し、あ一、探しましょうと思って、
その一、犬は新しい町に行った。
うん一、そこで、昼はあの一、暗いところで寝たり、
夜はゴミを食べたりした。
ある日、あの一、彼は道である子どもをあの一、見かけた。
その子はあの一、犬にとっても興味を持ちそうで、あの一、犬に近づいた。
犬もその子どもがとても好きで、あの一彼と一緒に遊んだ。
うん一、そして、あの一、その子どもは「僕と一緒に家に帰ろうか」と言った。
その時、い、あの一、犬はとてもうれしくて、やっと新しい家が見つかった。
はい。そういうストーリーです。

添付資料

CJ 12

あの一、この映画はね、あの一アンジェールといううーん、犬の物語です。

うーん、あの一、この映画の主人公は、あの一、人というより、あの一、犬ですから、視点はあの一、犬の目から世界を見る、つまり犬のあの一、第一人称が犬と設定すれば、ストーリーがよりあの一、生き生きするという感じがあると思います。

うーん、この犬はあの一、飼い主に捨てられた犬です。

うーん、あ、飼い主はとてもあの一、乱暴で、

あの一あ、後で犬が犬が家に戻れないように何時間も車を、あの一、田舎のほうへ、

あの一、運転して、

それで、あの一、車を止めて、

犬を外へ出すのではなく、そのまま直接に車の窓から犬をあの一、外へ投げ出しました。

うーん、うーん、あ、じゃ、これからわたしは犬からあの一、つまりあの一、あ、仮に私がその犬という話を進めましょう。

うーん、あ一、その一、車、飼い主から投げられた瞬間、あの一、地面に落ちた瞬間私はとても痛かった。

でもこれからあの一、うーん、家がないの、あの一、住む場所がないことが、私にあの一の痛みを忘れさせた。

それで、あの一、車の後につけて、

あの一、なん、一生懸命走った。

でも飼い主は、あの一、私に朝ごはんをくれませんでしたので、

あの一、数百メートルを走ったら、

もう力を、力がはいてしまって、もう走れません。

うーん、私の飼い主があの一、車の窓から頭を出して、私を顧みる姿が見えました。

うーん、きっと私が車の後をついてるかどうか確認しているでしょう。

うーん、それで、車があの一、だんだん小さくなって、

最後は私の視野から消えてしまいました。

うーん、うーん、その時は、私はあの一、なんと、切ない犬でしょうってという感じと共に、人間への、今までない、人間への恨みを感じまし、感じてしまいました。

うーん、これからは絶対人間へ復讐してやると思います、思いました。

うーん、そして、あの一、高速道路で走っている車の流れを見て、

あの一、いいアイデアが、あ一、私の頭に浮かんできました。

うーん、あの一、それらの車の中にいる人たちは、あの一、私の飼い主じゃないことは分かっています。

でも同じ人間です。

うーん、そして、その人たちももしかして、あの一、同じく動物を虐待する経験があるかもしれません。

うーん、それで私は、あの一、あの一、決心した、やっと。

うーん、そして、あの一、タイミングをよく見て、

あの一、二台の車の中へ、あの一、飛び込んだ。

うーん、そして、あとあの一、後ろの車の運転手が、あの一、うーん、慌てて私を避けるために、

あの一、前の車とぶつかってしまいました。

うーん、こんなことを私はあの一、何回も何回もやって、

それで、あの一、その日の高速道路は大変なことが起こってしまいました。

うーん、でも、あの一、ずっとこのまま、あの一、こんなことをやるのもつまらない。

添付資料

そして、私も疲れましました。だんだん。

うーん、うんー、で、あの一、そして、あの一、道のそばにあるなんか道しるしのようなものを、のところが私はウンコをした。

【何で?】

(笑う) うんー、なんで?

なんか、あ一、つまらない気持ちを、つまらない気持ちも含めて、あの一、人間への軽蔑も含めて、それで、ウンコした。(笑う)

うーん、その時私は、周りを見てみると、

あの一、近くに海があると、あの一、発見しました。

それで、海のところへ、あの一、海のところへ行きました。

うーん、海辺にあの一恋人がさん、散歩している恋人を見ました。

あの一、その時わた、その時私は、あの一、うんー、私の生涯、犬としての生涯は本当に失敗したと思い、とあの一、感じて、感じました。

うーん、あの一、今まで恋人がなかったこと。

それで、海辺に、あの一、うーん、だんだん太陽が落ちていて、

あの一、空がきれいに霞んでいます。

うーん、海の風、海の風のあの一、独特、独特な匂いかもします、あ、かもしれませんが、私の目には、目の中には涙が出てき、出てきました。

うーん、うーん、それで、あの一、空が真っ黒になって、私、もう一度あの一、うーん、空腹の感じが私を襲ってきました。

うーん、そして、海のそばにある小さな村へ行きました。食べ物を探すに。

うーん、私はあの一、ゴミ箱を見つけました。

その一、ゴミ箱を運んでくれるおじさんは、あの一、遠くないほうへ、あの一、一人の子どもがいると私に教えました。

うーん、その子はあの一、小さいバックと一緒に、あの一、道の中に立っていて、とても寂しい顔をしました。

その子もあの一、親に捨てられたでしょうと私は思いました。

うーん、で、私はそのまま座って、

その子と、あの一、ま一、一時間ぐらいかな、一時間ぐらい、あの一、え一、見つめました。

(笑う) あの一、うーん、その子と目と目の交流、目と目の交流をして、

その子はきっと私も飼い主に捨てられた犬ということを知ってくれたと思います。

うーん、これから、たぶん、うんー、この子と一緒にうんー、暮らすでしょう。

私はその子へ、あの一、その子のうんー、懐に、あの一、あ、この言葉、飛び込んだ。

その子もあの一、あ、私を抱きしめてくれた。

うーん、これからの行く先は分からない。

あの一、これから何をするかも分からない。

でもこの子と一緒にならきっと、あの一、安心だろうと私は思います。

うーん、はい、以上です。

これはいったいどんなストーリーですか？

まずは皆さんもご存知のように、えー、去年ですか、えーと、日本でも使った、日本で使った映画の名前は犬の心ことですか、このような映画があります。

そしてその中に、このストーリーとちょっと同じ、えーと、部分があります。

それは犬が自分の主人を探すという物語です。

では、この映画、絵本はどんなストーリーですか？

ちょっと、まずは、えーと、たぶん、ある家は、あるファミリーは自分の犬がいます。

そして、たぶん、この親はこの犬があまり好きではないから、

えーと、遠いところ、えーと、この犬を連れて、遠いところ行って、

そして、その犬をすてて、すてれ、捨てました。

でも、もちろん犬は自分の家族を、人間を自分の家族としてみます。

だから、その親とか、自分の主人とか、その車を一生懸命追って、追って、

でも、もちろん犬ですから、それは生物で車と比べることはできません。

最後は、結構だめだった。

えーと、もちろんこのような物語もいっぱいあります。

そのあとは、その犬は結局諦めることができなかった。

うーん、その車の匂いを従って、

その一、自分の主人、そして、その車を探しました。

この中に、いろんな物語、いろんなストーリーがありました。

例えば、えーと、犬が道とか、道路をとうじた時、危ない状況があって、

例えば、事故が起きたこととか、このようなこともあります。

車も火をつけて、そして、たぶん人も怪我しました。

このようなこともありました。

そして、犬はこのようなことを見たことはありませんですが、

これを見て、たぶん、とても驚いて、ちょっと怖かったかもしれません。

でも、やっぱり自分の家族ですから、諦めることができなかった。

続けて自分の主人、そしてその車を探しました。

その間、二人の姿が出てきましたが、

それは誰の姿かちょっと分かりませんが、

自分の想像から見れば、たぶん、なんか、幻のようなものかもしれません。

その犬の心の中からの絵とか、このような感じです。

そしてこのようなえー、幻を追って、犬は自分、続けて自分の主人を探しました。

例えば、えーと、なんかとても遠いところに行って、

人もいなくて、生物もうんー、なにも、ありません。

とても孤独な経験でした。

そして、そのあとは、まあ一、たぶん田舎に行きました。

それは、なんか、稲があるかもしれませんという感じです。

でもそのあとは、また、道とか、道に行きました。

その時は、犬も結構痩せか、痩せたみたいで。

添付資料

たぶんなんか、ゴミとかを食べるかもしれません。

このようなまま、えー、自分の主人を探したことも、あ、探すことも諦めなかった。

最後はある子どもと会った。

でも、この子どもは自分の主人、自分の主人、つまり、前のファミリーのメンバーではなかったかどうかはちょっとなんか、決める、確かめることはできなかったですが、でもその犬はたぶんこの子どもが大好きです。

あの一、私から見れば、たぶんこのふた、この二人と言ってもいいですが、

たぶんその子どもはその犬のご主人かもしれません。

最後はその子どもはとても泣きそうな顔しました。

それは、ちょっと私も迷った。

いったいどんな、なぜ、そんな顔しな、したかな？

たぶん、最後はその子どもも自分の犬を探していて、

その犬を見て、あー、それは自分の犬ではなかったかな、ではなかったという感じ。

でもまた、自分の、ほかのアイディアは、それは、あ、確かに自分の犬です。

たぶん自分のいろんな時間かかって、結局その犬探せました。とても嬉しかった。

だから、嬉しすぎるからそんな泣きそうな顔をしました。

このような二つの結果があると思います。

はい。以上です。

添付資料

CJ14

えー、犬は、あ、動物の中で、犬はその、一番忠誠心のある動物とされていますが、

えー、これから私が話したいその物語が、

あの一、犬に関する物語です。

じゃ始めます。

えー、主人が海外の事情で、あ、会社の事情で、海外に引っ越しました。

えー、そのワンちゃんが、あ、ワンちゃんをどうしても連れて行くことができなくて、

まあ、やむを得ず、ここに残すことにしました。

えー、ワンちゃんがその車をずっと追いかけて、あきらめ、諦めませんでした。

主人の息子は普段ワンちゃんのことにはかわいがって、世話をしてきました。

車の中でずっと振り、返して、そのワンちゃんをみ、見ていました。

でも、車のスピードは速いので、ワンちゃんがあの一、だんだん後ろになりました。

そのワンちゃんがあの一、悔しくて、遠くだんだん見えなくなる車をずっと見つめていました。

やはり昔のことを忘れず、ワンちゃんが主人一家の匂いを沿って、

大道路にたどりえー、たどり着きました。

えー、道路を渡そうとするが、

車が行ったり来たりして、なかなかあの一、渡せませんでした。

チャンスを見て、あの一、ワンちゃんが矢のように飛び出した。

えー、急に犬を見て、運転手さんが慌ててブレーキをかけたが、

まあ、遅くなって、二つの車がぶつかりました。

えー、ワンちゃんが怖く、怖くて逃げました。

でも、車の中の人を心配して、

あの一、ずっとそばで状況を見ていました。

人がだんだん車の前に集めて、

交通渋滞になりました。

えーと、申し訳なくと思いながらもワンちゃんがそこから離れました。

広い平野に渡って、

遠く昔の主人に似ている二人を見ました。

あの一、うれしくその犬が、あの一、その二人に追いかけた。

でも、近づくとその二人があの一、主人ではなかったと気づいた時、まあ、かな、悔しい犬の、あー、あ、犬はとても悲しかった。

えー、こうやって犬はずっとその広い平野でその一人がたたずんで、

えー、寂しく立っています。立っていました。

仕方がなく、あの一、その犬が、あの一、昔の家のほうに帰りました。

でも、昔の家がなくて、

あの一、やむを得ず一人で大通りを、あの一、歩いていました。

お腹がすいたので、

あの一、一つのレストランの前で止まりましたが、

えー、レストランの人が、えー、彼を、えー、行けと叫びました。

こうやって、ワンちゃんがあの一、放浪者のように一年、えー、一年暮らしました。

添付資料

一年後、ワンちゃんがその通りで歩いている時、ある子どもを見た。

子どもが、そのワンちゃんを見て、見た時、うれしくて、

あの一、ワンちゃんのほうに、あの一、向かいました。

子どもがワンちゃんのことをみ、見ると、

まあ、うれしいと共に、悲しい感じもしました。

昔かわいかったあのワンちゃんが、いま悲しそうに見えます。

ワンちゃんが始めてその子どもをあの一、しらなかつ、知りませんでした。

でもその匂い、あの一、匂いが、かつてあの一、主人、主人の息子の匂いと似ているとだんだん気づきました。

最後に、犬がその一、あの一、息子の懐に飛び込んできました。

はい。以上です。

添付資料

CJ 15

ある日、犬は車の窓から投げられました。

で、その犬は車を一生懸命追いかけようとしたが、その車はだんだん走っていきました。

で、その犬は居場所がなく、道端から、道端で生活していました。

うんー、主人のか、帰りを待っていましたが、帰ってこなかったんです。

でー、そのー、ある日、主人と同じ車を見かけて、道端から飛び出したんですが、

で、その車を運転する人が主人ではなくて、ほかの人だったんです。

で、その人はそのー、その犬におどろい、その犬にびっくりして、道端で止まっていたほかの車とぶつかっちゃいました。

で、事故になってしまいました。

うんー、そのせいで、道が渋滞してしまい、たくさんの方が集まってきました。

うんー、犬は慌てて逃げたんですが、犬は慌てて逃げてしまいました。

外で、うろうろ一晩過ごして、近くの村に来ました。

その村で、優しくそうな人を見つけて、

その人を新しい主人にしました。

添付資料

CJ16

えーと、この話はえーと、捨てられる運命とその運命を破るために努力した犬の話です。

で、その犬は、途中で車の中から捨てられてしまいました。

しかし、自分はえー、生まれてからずっと一緒だった家族にえーと、遊ばれることはどうしても信じられませんですが、

えーと、えーと、えー、この犬はきっとどこかで間違っているに違いないと思って、

自分はもう捨てられてしまいましたことはどうしても考えにくい。

それで、えーと、家族の、家族が去った方向に向かって、一生懸命走りこんで来ました。

えーと、まあ、本当に信じられません。

えーと、えー、昔のことをいろいろ思い出して、

どうしても考えにくいです。

えーと、それで、えーと、えー、自分の幸福を追い求めるために、自分の命まで捨ててもかまわないと思ったこの犬は、えー、家族の車の前に飛び出してきました。

で、しかし、大惨事を引き起こすことはえー、思ってもいませんでした。

で、この犬は自分はやはり負け犬かなと思って、

本当に絶望の底におち、陥ってしまった。

で、やはり、まあ、もう捨てられちゃった、或いは、まあ、もう裏切られたかもしねえんと思ったこの犬は、えー、やはり自分に属する世界と、新たな世界と生活を探しに行かないならぬと思って、走って、えーと、えーと、えー、走ってきました。

えーと、もとの、元の町に戻って、で、えーと、えーと、町の姿はぜんぜん変わっていないですけども、もう自分の居場所が何一つも存在しません。

えーと、どこ行っても追い出される運命から逃れる方法は何一つありません。

どうしようもないこの犬は、えーと、えー、落ち込んでいる時は、一人の姿が目の前に現れてきました。

あれは、えー、ずっと見慣れた、えーと、家族ではないでしょうかと、

まあ、この負け犬でも自分をずっと見守ってくれた人もいますので、自分の幸福を、えー、追い求める、その意志が強ければ、えー、夢は、夢とか、幸福とか、えー、すべて実現できるということが分かりました。

それは、だから私、えーと、これはやはり、たぶん、えーと信じるもの幸福という話かなと思って、さきほど思いました。

以上です。

添付資料

CJ 17

テーマの、えー、テーマは主人探しです。

その日は、くも、曇り日でした。

ある車がゆっくりと運転され、

急に止められました。

その時、子どもの泣き声も起きました。

車が再び走る時、犬もその車のあとに追いかけてました。

犬は必死に追いかけてましたが、

どうしても車を追いかけることができませんでした。

犬は疲れてしまい、やはり諦めてしまいました。

車が遠いところ、遠いところへ着き、

それから止めて、

主人が頭を振り返って見ました。

惜しいと思っているけれども、

その犬、その犬を車に乗せることができないと痛感しました。

犬は、悲しく思い、ゆっくりと道を見て、なげいて、嘆いてました。

そして、道にそばにまっ、待って、

ほかの車が来た時に乗せてもらおうと思いました。

でも、車が一台と一台と去って行き、

どうしても止めてくれませんでした。

犬が一日中、半日も待っていましたが、

食料も水もないので、とうとう疲れてしまい、

道に倒れてしまいました。

その時、あるくる、車が走ってきて、

犬が倒れたとこ、ことをはっきり見てないため、発見した時もう遅いので、

えー、車のそばにブレーキをかけました。

しかし、その時、正面とある車が来て、くる、二台の車がぶつかってしまいました。

これだけでなく、あとに来た車も次々と、えーぶつかってしまいました。

このように、車が何十台も、何百台も路中に集まってしまい、

ひどい交通渋滞になってしまいました。

犬がその状況を見て、

このようにあの一、発展しても、主人を探すことができないだろうと思って、方向を変えて、ほかの道をたどり始めました。

歩いて歩いて、急に人影が現れてきました。

そのあたりに、建物や、建物ほか、み、見えました。

犬がその建物に入って、

自分の主人を探そうと思いました。

しかし、自分の主人が見つかる可能性がゼロに近いと分かっています。

希望を持たないまま歩いて、

急に、ある子どもが、あわれ、あわれ、現れました。

添付資料

その子どももじっくりとその犬を見ていました。

ニコニコ笑いながらその子どもが犬に近づいてきました。

なんとかわいい犬だろうとその子どもは思いました。

しかし、急に、悲しみもその子どもからもあわ、あわれました。

なぜかという、その子どもはこの犬を、家に連れて帰ることもできないからです。

犬がその子どものちか、近づいて、かえ、連れて、家に連れて帰ってくださいと言っているように、その子どもに、えー、その子どもをなめました。

以上です。

すみません。

えーと、ある犬が老いてきましたので、
あの一、飼い主がこの犬が負担だと思って捨てたんです。
うん一、いつも乗っていた車から、その犬を、とう一ん、捨てたんです。
その犬がう一ん、必死にその車を追いかけて、う一ん、追いかけてましたが、
やっぱり、あの一、老いた犬は、あの一、車をなかなか追いつかなかったんです。
犬はあの一、チラッとあの一、この、この主人が振り返るのを見ました。
あの一、なん、なん、なんってこと、私が投げられたのを確認したのかってこの犬は思いました。
え一、そんなにかわいがってくれたのに、
私が、あの一、老いたとたん、負担だと思った人、なんって残酷な人だとこの犬は、あの一、思ったんです。
で、そ、で一、あの一、この一、あ、道に止まっている犬が、えーと、あと一何とというか、怒り、急に怒りに燃えたんです。
で、復讐っていうプランが頭にあの一、浮かんだ。
えーと、この犬があるプランをう一ん、思い出した。
その車の匂いを嗅いで、嗅ぎながら、
あの一、車のゆく場所を探しました。
で、えーと、あの一、あるところで、そのよく知ってた匂いを見つけた。
で、その一、だんだんだんだんその一、車が寄ってきました。
で、その車がたぶん五メートルまでのところで、この一、犬があ一、とっさに飛び出した。
中に飛び出した。
運転手、つまりその一、飼い主が、あ一、犬を見てびっくりしました。
で、ハンドルをあの一、急に握りましたら、あの一、ほかの車にぶつかりました。
で、あの一、二つの車があの一、あ、この二つの車ともひっくり返ったんです。
で、つまり、大事故に、大事故になってしまったんです。
この犬はこれをみて怖かったんです。
で、周りに人がどんどんどんどん集まってきました。
あの一、で、この一、まあ一、車の中にいる人たちが全部死んだってみんなも議論した。
これを聞いた犬が、あの一、慌てました。
怖かったんです。
え一、怖がって、えーと、逃げました。
逃げる前に振り返って、この一、その一、そのところを見たら、なんか、えーと、大渋滞になってしまったんです。
こんなことになるとは思ってなかったんですって、この犬が思ったんです。
えーと、まあ、後悔しました。
犬、あの一、犬は走って走って逃げようと思いました。
でも、どこに行ってもなんか、なかなか自分の居場所ではない感じがしました。
まあ、どこに行っても寂しい、寂しがっていたんです。
え一、まあ一、なんていうか、絶望した犬が空に向かって、さけ、叫んだんです、ね。
どうしても、あ、どうしようもない犬が、え一、犬はどうしようもなかったんです。
まあ一、速くその一、昔住んでいる家に戻りました。

添付資料

うーん、戻ったらあるよく知っていた匂いを嗅ぐ、うーん、嗅いだんです。

で、その一、息子さんの匂いです。

で、息子さんはいまどこにいるんですかってさ、探そうとしました。

で一、うーん、まあ、よく、まあ一、ある人に、なんというか、あの人に、の指示によると、やっとその息子さんが見つかりました。

まあ、えーと、道にたた、佇んでいました。

犬はその息子、え、息子さんはその犬を見て非常にうれしかったのです。

え一、犬は、その一、息子さんに、へ飛んでいきました。

でも、息子さんの、まあ、さっきえーと、両親の死を知って犬を見たら、あの一、ますます悲しくなってきました。

で一、この犬が、ま、うまく表現できないですが、え一、この息子さんにハグしました。

【抱きしめたんですか】

あ、はい、そうですね。抱きしめたんです。

で、まあ、その一、それからは息子さんとその犬はずっと一緒にいました。

以上です。

添付資料

CJ 19

うーん、この絵本の、このストーリーの名前は、えー、恩を返す犬、というものだ。というものです。

うーん、犬の名前はハチ公です。

【ハチ公?】

はい。ハチ公です。

えー、ハチ公はある日、彼のしゅ、主人と一緒に出かけた時、大通りで、歩いてい、歩いている。

しかし、突然ある車が、あの一、速く走ってきました。

主人がきがつか、気がつかなくて、

この車にぶつかって、ぶつかってしまいました。

あの一、重症になって、

まもなく、あの、死んでしまいました。

ハチ公はとしても悲しくて、

その車を追い、一生懸命追いかけて、追いかけました。

しかし、車のスピードが非常に速くて、

おいか、おいか、おいか、追いかかなくなりました。(笑う)

うーん、ハチ公は落ち込んで、

でも、突然この、そうーん、頭を土地に向かって、

車が残った匂いを嗅ぎ分け、嗅ぎ分けました。

うーん、ご存知のように、犬のはしか、とても、はしか一、あ、はな、犬の鼻が非常に、うーん、すみませんが、その日本語が忘れましたが。

【鋭い?】

あ、はい、鋭い、うーん、鋭くて、鋭くて、

すぐその匂いを覚えてとハチ公が思いました。

その日から、彼は毎日毎日その一、自動車道路、自動車道路で待っています。

その車を探しているからです。

ではうーん、一ヶ月、一ヶ月あとで、彼は、自動車道路で待っていた時、一つの車がやってきた。やってきました。

ハチ公はその車の匂いを嗅ぎ、嗅ぎ分けて、

あ、そうだ、この車だと彼は思い、と思い出した。と思い出しました。

それで、彼は、突然、そのこの車が目の前にやってくる際に、彼は突然、自動車道路を横断して、その運転者が気がつかなくて、気がつかないので、

向こうから、走ってくる車と、ぶつり、とぶつかってしまいました。

うーん、その時は、その一、自動車道路が非常に忙しい、くて、

後ろの自動車がいっぱい走っている、います。

ですから、ですから、うーん、今度は大事故になってしまいました。

道路が渋滞して、多くの車はし、はし、うーん、多くの車が運転できなくなりました。

ハチ公はその一、それを見て、ちょっと慰め、な、心の中にちょっと慰めた感じ、慰めたことを感じましたが、でも、なんとか、かれのここ、彼の心の中で、まあ、こういう、これは、本当の、その車、車ですかと、という疑問を持っています。という疑問を持っています。

うーん、ハチ公はそういう事故があった、あ、そういう事故を引き起こした日から彼も、彼、彼はその事故を引

添付資料

き起こした際以外、彼は一日も、一刻も嬉しいことを感じたことがなかった。感じたことはないです。ない、うーん、感じたことがない、ないです。

うーん、ハチ公はうーん、常に、依然彼と主人と一緒に歩いている、海のうーん、かいべんで、かいべんへ行きました。

そこで、彼は常に主人の幻影を、幻影を見たことがあります。

それは、主人のことが、えー、懐かしくて、たまらない、たまらなかったからです。

毎日、毎日、ハチ公はかいべんから、かいべんの遠くまで、海上に主人がいったこと、主人がいるというげんしょうが目の前にあります、ありますけ、あつたけれども、それは本当ではないということが、ていうから、毎日、日が沈んだ後、自分一人で寂しくて、都市へ帰りました。

帰る時、彼は、き、うーん、何度も何度も振り返って、海上の主人のますます小さくなって幻影を見ました。その現象は、人を見てとても感動しました。

彼は一人で都市へ帰って、でも、主人が亡くなりましたから、彼の、家がなくなりました。

都市で、ほか、ほかの人に、うーん、ほかの人に、お、追い捨てる、追い捨てられて、また、都市から、うーん、すみません。あの一、ものを要らない時、それをうーん、捨てる？

【捨てる、捨てられる？はい。】

捨てられる、はいうーん、ほかの人にも捨てられたから、

彼はまた、主人と、主人、主人が事故にあったその自動車道路に、戻って、戻ってきました。

戻る際に、おかしいことがありました。

当面から、向こうから、一人が荷物を持って歩いてきました。

ハチ公はこの人はどこで見たことがあります、と心の中で思いました。

その人は、ハチ公はじっと自分のことを見て、見たことを発見して、

おかしいなあ、この犬は、とあって、ハチ公に歩いてきました。

最初は、ニコニコして、えーニコニコしながら、でも、ハチ公に近づいて、あ、この犬だと思い、思い出しました。

実は、この人はあの日、ハチ公の主人をぶつ、うーん、自転車を運転して、

ハチ公の主人をぶつかった、ぶつかった人です。

ハチ公はその日のこ、うーん、何か、何か、その日のことが、突然思い出し、思い出しました。

あ、もしかして、と彼はここ、心の中に、思っていた、思い、と考えていた、と考えました。

それで、彼はその人に近づいて、

彼の匂いを、嗅ぎ分けて、嗅ぎ分けてしまい、嗅ぎ分け始めました。

はい、うーん、それは、ここでこのストーリーが終わりましたが、あの一、うーん、終わりましたが、最終の結果は、あの一、その一、読者の、読者に想像する余地を残してしまいました。

私は、その最終は、うーん、ハチ公は本当の犯人を捜して、

主人、あ、その人を、その人を警察、警察官へ送って、

主人の恩を返して、返したことになりましたと思っています。

添付資料

CJ 20

今日はアンジュールという本、絵本を見ました。

これについて簡単、紹介しましょう。

この一、本は実はある犬の物語と言えます。

この犬は、あ、都合のために、うーんと、なんか、しんちゃんという名前をつけましょう。(笑う)

このしんちゃんは、今はもう四五歳というところです。

ですから、もう老いてますから、

主人、主人、主、の主(ぬし)はもう、もうなんか、要らない、面倒くさいということで、

しんちゃんを高速道路まで連れてきて、

そして、まあ、そのまま捨ててしまいました。

このしんちゃんは走っていった主の車をみて、

うーん、その後を追いかけてました。

でも、もちろん犬の、その一、スピードと車のスピードの差もあって、

まあ、とうとう、追いつかなかったんです。

その後は、しんちゃんはうーん、うーん、その一、そうですね。

その後はしんちゃんは、その一、主の車の残った匂いを嗅いで、

うーん、心の中にきざみこん、刻み込みました。

うーん、その後は、しんちゃんは高速道路の道端に座って、

その時はまた、ほかの車が来ました。

うーん、しんちゃんは、まあ、自分の主の車なのか、ほかの車なのか、それを確かめるために、道路の真ん中、のまわりを嗅ぎました。

匂いで確かめる、確かめるために。

もちろん主の車ではなかったんですが、

まあ、一台の車が過ぎていて、またほかの車も走ってきますね。

まあ、高速道路はこういうものですよ。

それでえーそのしんちゃんはまだ道の真ん中にいる時に、

後ろからくる、一台の車が走ってきました。

えー、運転手さんはもちろん、うーん、急ブレーキをかけて、

車を止めようとしたんですが、

でも、その時、なんだか、高速道路の、の、道端の、あれ、まあ、そ、あれにぶつかって、車が倒れました。

また、後ろから走ってくる車がこの車にぶつかって、

その次々と、まあ、何台かの車が道路の真ん中か、その一、道端かのところどころ、転んでいます。

こうすると、その一、またその後ろの車がもう前へ進めなくて、

すごーい渋滞になっちゃうんです。

ま、しんちゃんは、まあ、自分の、自分がこの事故の、まあ、うーん、その犯罪者(笑う)というものですよね。

まあ、もちろんなんかびっくりすと同時に、ちょっとまあ、悪いと思うんですが、

まあ、でもやはり自分の主のことを考えて、

えー、まあ、ひそかにまあ、まあ、行っちゃいましたね。

彼は、しんちゃんはまあ、もちろん主の匂いで、嗅ぎながら自分のその一、主の家のほうに走っていきました。

添付資料

まあ、時々まあ、休んだり、なんだか寂しげに空に吠えたりもしますが、
やはり諦めず、
そのまま、まあ、その主の町に向かって走って行きました。
その最後に、まあ、とうとう、そのある町に、ある町を見ました。
えー、その近くで、近くまで行って、
そう見ると、ちょうど主の住んでいる町でした。
しんちゃんはこの町を歩いていて、
その主の知人、知り合いの、その一、トムに会いました。
トムもしんちゃんのことを知っていて、
しんちゃんが今自分の主のところに戻ってきたということを知っていて、
かわいそうに、かわいそうなしんちゃんにその一、主の場所、居場所を教えました。
しんちゃんはそれにしたがって、
前へ走りましたが、えー、そ、そこで、まあ、主に会いました。
主はもちろんまあ、複雑な気持ちでしんちゃんを見ていますが、
しんちゃんも道に座って、
まあ、ふく、まあ、しんちゃんも複雑なき、えー、気持ちだと思いましたが、
まあ、そして、主はしんちゃんのところ歩いてきて、
じっと見ているが、
最後にやはりしんちゃんは、うん、主に尻尾を振りながらあまい、甘えますよね。
まあ、それ、そして、主もしんちゃんの帰りをなんか許したような感じです。
このようなこの一、ストーリーの最後ですが、いい結末ですね。

添付資料

日本語母語話者データ (JJ9～JJ20)

JJ9

この本の題名はアンジュールというもので、
えーと、その内容についてなんです、
まず、最初に、えー、元の飼い主家族の、家族に、えー、何か理由があったんだと思うんですけど、
車からまあ、道路に捨てられて、
この犬は捨てられてしましまして、
そして、この犬は、まあ、もちろん本当の飼い主が恋しいからなんです、
あの一、車を追っかけて、
あの一、道路走って行って、
あ一、その元の飼い主の人のしん、
その犬のことを心配には思っているみたいなんです。
で、犬もしばらくはその追いかけて走り続けていたんですが、
その車がもう見えなくなってしまって、
もう追いつかないって分かってしまうと、
犬も悲しくなるといって、
まあ、その捨てられた道路の、端に座って、
車を見て悲しんでいるんですが、
えー、そこで、その一、途中でその一、道路を横断しようとしたこの犬が思ったときに、
その車が、犬をよけようとした車が事故になってしまって、
そして、その一、もちろん犬はそのつもりで飛び出たわけではなかったですが、
その車の事故が玉突き事故になってしまって、
その一、火が出たりして、
ちょっと大変な状況になってしまって、
まあ、犬も申し訳なく思っていました。
そして、その一、まあ、犬はその場からちょっと逃げるようにして、
えー、その、この道路、捨てられた道路から離れていくんですが、
そのときに、まあ、幻想だと思うんですけど、
その一、元の飼い主の姿を追ってといつか、
その姿が犬には見えていて、
それを追う、ようにしているところらに放浪に出かけるといつか、
出て歩いていくんですが、
えーと、その一、広い原といつか、
その一、海岸の辺りのその一、海ですね、
その一、砂浜のところの、その飼い主を求めて、
歩き回っていくことになって、
そしてその一、放浪としていく飼い主を探しているうちに、
犬が町にたどり着いて、
で、町のその細い路地を歩き回っている時に、
その一、回っていて、

添付資料

まあ、その一、通りのおじさんとかに「あっち行け」みたいな感じであしらわれたりして、っていうときに、っていうのをずっとしていたんですが、
最後にその一、元の飼い主と、私としては元の飼い主かなと思う人が、
その犬を、元の道路に迎えに来て、
その一、もちろん捨てた飼い主のほうもとても申し訳なく思っていて、
でも、犬もずいぶんつらいことがあったにもかかわらず、
その一、元の飼い主のところ、元のところに戻れてすごくうれしいっていう、
よかったなと思うっていうお話です。

添付資料

JJ10

まず、主人公の飼い主があつて、
で、飼い犬が飼い主から車から捨てられるわけです。まず。
で、車から捨てられて、
まあ、車を、走り去った車を必死に追いかけるんですけども、
まあ、車なんで、追いつけなくて、
とうとう疲れて、
あきらめてしまうという。
そして、まあ、その、その犬はそういう人間に見捨てられたんで、
まあ、人間がちょっと嫌いになって、
で、道に来る車の前にわざと出て、
ちょっと驚かしてやろうと思って、
飼い主じゃない別の車の前に出たんですけど、
まあ、そしたら、まあ、急に、犬が出てきたんで、
事故を起こってしまつて、
で、犬はこれはまずいなと思って見てたら、
どんどん事故がえらい大事故になっていて、
で、これはどう、どうしたものかと思って、
とりあえずその場を逃げ去るわけです。
逃げ去つてまあ、
別に人間がそんな事故起こつたっていいだろうと思って、
ちょっとふてくされたような感じになるんですが、
まあ、ちょっと、まあ、だんだんえらいことをしてしまったなと思って、
だんだん後悔の念が出てきて、
まあ、一匹で吠えてみたりして、
遠くに行きたく、行きたくなくて、
まあ、事故の現場から遠くに一匹で歩いていくわけです。
で、どんどん遠くに歩いていって、
まあ、どんどん、どんどん、求めたところとはぜんぜん違うところに行つて、
で、その最終のマスでは、違う町にたどり着いて、
路地裏でちょっとごみをあさったりしてて、
町の人に追い払われたりして、
ちょっと惨めになつたりするんですが、
そこで、町のはずれで、あの一、一人の子どもに出会うんです。
で、子どもは、まあ、ほかの人は追い払うんですけども、
ちょっとこっちに来いみたいなこといわれて、
まあ、寄ってみると、
まあ、その子どもは自分の、自分の対して、
まあ、犬に対して優しく接してくれたので、
まあ、犬もちょっと人間を恨んでいるようなところはあつたんですけど、

添付資料

えー、その子どもに対しては心を開いて、
その一、やさしく接してもらったんで、
犬はその子に対して、うまくなっついてという話です。
その犬はそのなっついたというところで話が終わります。
そんな、以上です。

添付資料

JJ11

えーと、この話はまず最初に、犬があの一車で郊外のほうに連れてこられて、
そこで捨てられてしまって、
それで、その一その車が行ってしまったので、
犬がなんだと、なんだ（笑う）思って、
その車をどんどん追いかけていくんですけど、
結局、その車のほうは速くて、
まあ、ずっと先のほうに車が行ってしまったので、
うんー、犬が結局追いかけるのを諦めてしまって、
で、どうしたらいいのかなというふうに途方に暮れて、
まあ、しばらくその辺をうろうろしたりして、
と、えーと、その、その場の道に、車がいっぱいやってきて、
まあ、もしかしたら車が戻ってきてくれたのかなと犬が思って、
あの一、道のほうに出て行ってしまって、
で、あの一、車の往来が激しくなってきたので、
犬が道に出て行った、まあ、出て行ったので、
引かれそうになってしまって、
で、犬は引かれなかったんですけど、
犬をよけようとした車同士が正面衝突をしてしまいました。
それで、犬がその事故に気づいて、
この一、えーと、道路を渡った後に振り返ってみると、
事故で、その一、道の渋滞していたり、
人が騒いでいたりして、
それを振り返りながらみて、
でも、あの一、自分を捨てた飼い主じゃないなっていうので、
と、あと、事故を起こしてしまって、っていうこと考えているかどうか（笑う）分からないんですけど、
とりあえず、自分の飼い主が戻ってきてないなあ、っていうのを確認して、
悲しそうにその場から立ち去っていきました。
それで、まあ、その後も、その辺うろうろ放浪していると、
人影が遠くに見えたので、
もしかしたら飼い主かもしれないと思って、
近づいていってみるんですけど、
なんか違う。
それで、結局その人影を見送って、
まあ、悲しいから吠えてみたりとかして、
結局また放浪を始めます。
で、放浪を始めてしばらくは、
後姿が悲しげになってきて、
それでだんだん日が暮れてきたのか、
天気も変わってきて、

添付資料

それでもまだ放浪を続けています。
で、放浪をしていると、
遠くになにかが見えたようなので、
そこに向かって歩いて、
町ですかね、町が見えたので、
そこに向かって歩いていくことにしてみました。
すると、建物の間を、こう一探索というか、
またうろうろしていると、町、そこは町でした。
で、町では人が歩いていたりして、
それで、初めてその一、たぶんおじさんですけど、
おじさんにかまってもらえて、
少しほっとしていると、
今度は誰かこっちを見ている小さい子どもかな？がいます。
で、子どもはその一、犬を迎えようとちょっとしゃがみました。
で、犬も動かないけど、
子どものほうから寄ってきてくれて、
それで、最初ニコニコしてたけど、
じっとしてるから、
「うん？どうしたんだろう」っていう顔を子どもがして、
で、結局、すごい、あの一、至近距離ができてから
犬がうれしそうに尻尾を振って子供によって行った。
というハッピーエンド（笑う）のお話です。

添付資料

JJ12

ある日、まず、犬がどこか知らない遠くの場所に連れて行かれて、ふっとある家族に捨てられてしまいました。

犬はすごく悲しくて、

全力で家族の車を追いかけますが、

全く追いつくことはできませんでした。

やがて犬はその家族その家族を追いかけるのを諦め、

とぼとぼ歩いていきました。

あるところに犬は止まって、

家族の帰りを待つことにしました。

やがて車がやってきて、

犬はそれに気づいて欲しいと、欲しました。

そこで、犬は車の前を通り過ぎて、

車を気づいてもらうことにしました。

けれど、その車の反対側には別の車がいって、

犬にはまったく気づかなかった。

犬、あ、車はぶつかりあって、

事故を起こしてしまいました。

犬は通り過ぎたんで、

車は反対側の車の気づくことができず、

事故を起こしてしまったんです。

犬は戸惑いどうしようかと思いました。

けれどどうすることもできず、

また、うろうろうろたいるばかりでした。

事故は大惨事になり、

人は死にました。

と、ここはよくわからなかったんですけど、

まあ、犬はお墓に行って、

なぜかおしっこをしました。

犬は遠くで自分の知ってた人の影を見たような気がしました。

それで追いかけて叫びましたが、

彼らには届きませんでした。

犬はたった一人残されました。

寂しさのあまり、

泣き声を、叫び声を上げましたが、

誰もいませんでした。

犬はその家族たちの影と反対方向ととぼとぼ歩き始めました。

ひたすら誰もいない、何もない地面を歩きました。

やがて犬は海辺の町に着きました。

あ、海や草原も通ったのちにある町へ出ました。

添付資料

犬は町をさまよいました。

けれど誰にも相手にされず、

人には追いやられるばかりでした。

犬はそれでもめげずに歩きつづ、続け、あるとき男の子に会いました。

男の子はにっこりと笑って犬に近づき、

犬、犬は男の子と出会うことで寂しさを埋めることができました。

で、終わりです。

添付資料

JJ13

今日はこの物語について話します。

あるところに一匹の野良犬がいました。

その野良犬は小さいころからずっと野良犬で、

あまり人とか、ほかの動物とかに触れたことがなくて、

なんか、よう、なんか捨てるというか、そんなところにいました。

そんな時、その一匹の犬が車に引かれそうになりました。

その犬はその車を恨んで、

仕返しをしてやろうと、

その車をずっと、その車のほうがぜんぜん速いのに、その車をずっと追いました。

途中で引き離れそうになっても、

大変なのにずっと、ずっと追ってきました。

でも、最終的には引き離されてしまい、

野良犬は途方に暮れてしまった。

しばらく途方に暮れていたところで、

途方に暮れていたところを通る車の数々を見て、

もうどの車でもいいやと思い、

さっきの自分の引かれそうになったことの復讐をしようと思いました。

そのどンドン来る車の前にわざと立って、

かき回したりして、

わざと事故を起こさせました。

その犬の狙い通り車は事故になり、

自動車事故が起き、

たくさん、炎が出て、

たくさんの人たちが被害にあいました。

この犬は最初はやってやったっていう感じでその場から離れるんですけど、

ちょっとその場から離れてみると、

すごい炎やすごい人、警察などがたくさん来て、

大惨事になってました。

渋滞なども起きていて、

救急車もたくさん来ていて、本当に大事故でした。

そこで犬はその光景を遠くから見た時に、自分のしたことの罪深さに気づきました。

あんなに多くのなにも罪のない人たちを自分のせいでそういう状態にしてしまったことはやっぱりとてもつらいというか、心残りで、

忘れようとしてもなかなか忘れられませんでした。

そこで彼はその気持ちを紛らわすために、また放浪しました。

いろんな行ってみたことのないところに行ってみたり、

その自分のしたことの罪深さとか、やるせなさをなんか隠すために、

いろんなところに行って、

一人でいろいろ考えて、歩いて、

添付資料

いろんな景色を見たりして、

その犬はだんだん自分のもらったことのなかった愛情というか、

そういうものについて考えるようになりました。

人のいないところ、人やほかの動物のいないところも回りましたし、

普通の町で、人や車のいるところも回りました。

そして、ある時海のような、海辺のような開けた場所に出ました。

そこには、一人の少年がいました。

その少年はこの犬がやったことも、どういう犬かもなにも知らなかったけれど、

「こっちおいで」とやさしく言ってくれました。

犬は最初は疑っていましたが、

その少年の笑顔とかに引かれて、近づいてしまいました。

そして最終的には、その動物、その人間が犬によしよしとしてくれ、

犬はなんか、今までの人生であまり愛情とか感じたことがなかったり、

自分が事故を起こしたことでショックを受けていましたが、

その少年によって甘えるということを知ったというか、

これから幸せになれるんだなと思いました。

終わりです。

添付資料

JJ14

犬がえーと、えーと、車の中から捨てられて、捨てられました。

で、その犬が、その車を追うんですが、

結局追いつかず、一人、一人残されました。

それで、えーと、結局その犬は、どうしようもなく、

その一、えーと、その周辺を放浪するんですが、

車、道路を横切るときに、一台の車が急ブレーキしたために、次々と玉突き事故になって、えーと、大惨事になりました。

えー、その一、それを、えーと、そのまま、そのまま放っておくというのかな、放っておいて、

その犬は、近くの海を放浪するのですが、

結局そこでもう、そこにいる人々を、えー、そこにいる人々を遠くから見るだけで、

結局何することはなく放浪し続けます。

で、それで、えーと、その犬は町中を、に、入ってきて、

そのなかでさん、町の中をさまよいます。

で、そのあと、一人の少年に会って、

その少年が、この捨てられた犬であることを知って、

その犬を助けてあげることになりました。

はい。

添付資料

JJ15

まず、一台の車から犬が外へ投げ捨てられます。

えー、そして犬はその車を追いかけて、

えー、走っていくんですが、

えー、車には追いつかずに、

一人取り残されてしまいます。

えー、犬はもう車が見えなくなって、

追いかけるのはやめて、

どうしようかと、途方に暮れています。

えー、ちょうど別の車が近くに来て、

その犬はもう自分は引かれてしまえばいいやと思って、

飛び、その車の前に飛び出します。

えー、すると、車はその犬を、えー、急ハンドルでよけて、

犬にはぶつからないんですが、

あの一、対向車にぶつかってしまいます。

そうすると、車はひっくり返って、

事故が起きてしまいます。

えー、犬はそれを見て、

申し訳なさそうに思います。

えー、更に中には車の中にいた人やけが人もいたりして、

周りはいの一、大渋滞になって、

大騒ぎになってしまったので、

犬はそれを遠くで振り返っています。

えー、犬はまた別の場所で二人の人影を見かけて、

途中まではその人たちを追いかけるんですが、

えー、近くまで行って、

やはりそこに行くのをためらって、

途中で引き返してしまいます。

で、そして、犬はまた一人ぼっちになって、

途方に暮れて、さまよい歩きます。

えー、犬はある、ある町を見つけて、

そこに行きます。

えー、ですが、その町でも自分を相手にしてくれる人はいなくて、

みち、町にいたおじさんに「あっちに行け」というふうにして追いやられてしまいます。

そして、また、歩いていると、

道に自分に似たように一人ポツンと子どもがえー、道の真ん中に立っています。

そのまま子どもは犬から逃げる様子もなく、

その犬においでと言って、おいでと言ってるかのように呼んで、

犬はその子どもに近づいて、子どもも犬に近づいていきます。

そして犬は、自分を受け入れてくれる人に出会って、

添付資料

うれしそうにまあ、近寄って行って、
子どもと、えー、子どもと仲良くして、なついで終わりという話です。
はい。以上です。

添付資料

JJ16

この本なんですけれども、犬がいきなり車から追い出されます。

おそらく犬のほうは全く考えてなかったんだと思いますが、

犬も追い出されたんで、

犬もびっくりして、追いかけます。

ただ、やっぱり車と犬なんで、

えーと、やっぱり犬は必死で追いかけるんですけど、

追いつけないようになります。

車のほうはそのまま犬を見捨てて、

そのまま去りというのも変ですけど、

放っていくような感じになります。

でー、その犬のほうも、一生懸命追いかけて、

結局どうしようもないので諦めて、

そのー、場所でこう居座って、っていうんですか、

あー、ほかの車がその車が、あ、車がもう一度戻ってきて、

こー、拾いに来るんじゃないかなと考えて、

たぶん車をいろいろ待っているようになるんですけども。

ただ車がいっぱい来ますんで、

やっぱり犬とか野生動物が飛び出ると、

車のほうを引かないようにというふうに気を使うことになるんで、

そうするとやっぱり、どうも車どおりの多い場所みたいで、

事故が起こってですね。

自動車事故が正面衝突しているんですけども、

そのせいで、玉突きじゃないけれども、

車が一つ火災を起こして、

大事故になって、

犬のほうも必死で吠えるんですけども、

やっぱり事故が起こったのが自分のせいだとわかったみたいですし、

結局ここで待ってもその捨てた飼い主の車が戻ってこないというのを分かったみたいで、そこから立ち去って行きます。

うんー、で、そこから先はまだ飼い主を探すのか、

住家を探すのちょっとかわからないんですけども、

こー、居場所を求めて探して、

いろんなところ歩いていくんですけども、

うんー、あるときには、まあ、二人組みの人たちを見つけて、

これが飼い主なのか、あるいは、自分の、を飼ってくれるかどうかというのをみつけるんですけども、

でも、やっぱり飼ってくれなさそうだとことで去っていきますし、

またあるときはうんー、別の川のようなところに入って、

自分がそこに住めるかどうかというのを吟味するわけですけども、

結局そのように吟味しても無理だというんで、

添付資料

また別の場所を探しているいろいろいきます。

で、途中で、ひょっというんですか、

いろいろ町を歩いていくと、町のようなところが見えたんで、ので、

あの町に入ってみようということで、

町に行くんですけども、

最初は路地裏をいろいろ観察というか、

冒険してというんですか、

路地裏で住める場所ないかいろいろ探して、

そこから表通りのほうへ行くんですけども、

やっぱり表通りは人は多いですから、

野良犬がいっぱいいると、治安上も問題がありますし、というんで、

町の人にずいぶん追い出されたりするみたいですね。

で、そうやって追い出されて、

次はどこ行くかなというのと、やっぱり、と一いうんで、

途方にくれていると、目の前に女の子がいるのが見えたと、

女のほうも犬で一匹でいるのはどうしたのかなとこっち寄ってくるんですけども、

うんー、最終のほうは、やっぱり好奇心がちょっとやっぱりあって、

近づいてきたんですけども、

うんー、これはいったいなんだろうかというふうに品定めというんですか、

よく見ているところで、犬のほうはこのぐらいならば何とか受け入れてもらえそうだというので飛びついて、

喜んでいちゃついで、笑わしたかどうかわからないけど、

まあ、女の子のほうはそれにちょっとびっくりしたというところですね。

ここで終わるので、その先がどうなるか分からない、

まあ、旅に出たのかあるいは飼われたのか、分からないけれども、

まあ、話としてはこれで終わりになります。

添付資料

JJ17

ある日、主人に捨てられた犬がいました。
車の上、車から投げ捨てられて、
その犬はずっと主人を追いかけるのですが、
主人を、主人の車に追いつきません。
彼は、その犬は、えーと、道端に一人ぼっちで残されました。
ずっと、主人、主人の車が戻ってくるのを待ちますが、
えーと、ぜんぜん見つかりません。
犬は、えーと、そ、犬は道を渡ろうとして、えー、道を渡ろうとしたときに、
前から車が、ちょうど前から車が来てしまいました。
その車は急ブレーキかけたのですが、
そのために、その前から来た車とぶつかってしまいました。
車体は傾き、
火の手が上がりました。
犬はその光景に大変おびえました。
そして、犬はそこから立ち去りました。
そこから立ち去ったものの、その周りには人一人いません。
すごく孤独で、
すごく寂しくて、
ずっと歩いてきますが、
どこにも、ただ彼は一人だけで、
どこにも、えーと、誰もいません。
夜になってしまいました。
しかし彼は一つの村を探し当てました。
しかし村には来たものの、すぐ追い払われてしまいます。
また彼は一人ぼっちになったそのときに、
目の前に男の子、男の子がいるのを見つけました。
彼は荷物を抱えて、えー、その子どもは荷物を抱えていましたが、どうも家出をしたようです。
きっとその子どもも寂しかったのでしょう。
その犬に話しかけました。
その犬と向かい合っている時に、と一お互い目を見つめあい、お互いがすごい寂しくて、孤独な思いをしている
ということに気づきました。
そこから友情が芽生えました。

添付資料

JJ18

これは一匹の犬の話です。

名前はワンワンといいます。

ワンワンはとても自分のご主人さまが好きだったんですが、
ご主人様はどこかに行ってしまうようです。

エンジンがかかりました。

車のエンジン音が聞こえました。

ご主人様は車に乗って、

どこかにいってしまうようです。

ワンワンにはなにもいわずに。

だからワンワンは一生懸命ご主人様の車を追いかけてました。

全力疾走で追いかけてました。

そうするとご主人さまの車が見えてきて、

今にも追いつけそうな気がしました。

そんなときに、ご主人様は車の窓から後ろを振り返って、

ワンワンを見ました。

だけど車は止まらずにそのまま去っていきました。

車の姿が見えなくなって、

ワンワンはとても残念でした。

どうしてご主人様は行ってしまうのかもワンワンにはわかりませんでした。

だからワンワンはいろんなところをさまよって、

ご主人様のいってしまったわけを考えました。

でもわからないんで、

ご主人様が帰ってきたであろう道で、帰ってくることを信じてご主人様を待ちました。

でもやっぱり帰ってきません。

どうしたらいいかわからなくて、

ワンワンは車の前に飛び出してしまいました。

でもワンワンには車は当たらずに、

ワンワンは今も生きています。

でもふっと横をみると、

大きな事故が起きていました。

ワンワンはこれが自分のせいで起きた事故だとわかりました。

でもどうしてこうなったのか、どうしたらいいのか、ワンワンにはどうしたらいいのかぜんぜんわかりません。

でも自分で起こしてしまった事故だけはわかりました。

でもどうしようもないので、逃げちゃえばいいんじゃないかなと思いました。

だから逃げようと思って、ずっとずっとずっと走りました。

振り返ってもうその事故の様子が見えなくなるまで、ずっとずっと走りました。

どのくらい走ったか、足を止めると、自分でも知らないようなところに来ていました。

ここがどこかわからずに、あっちこっち歩き回りました。

でもやっぱりわかりません。

添付資料

ここがどこなのか。

前も後ろも自分が分からない世界です。

そんな時、ふっと前を見ると、見覚えのある人がいます。

あっ、あの人だ。そう思いました。

彼は満面の笑みを浮かべてこっちを見えています。

思わず駆け寄って、

そうするとまさにご主人様でした。

ワンワンはとってもうれしかったです。

うれしくて、うれしくて、たまりませんでした。

やっと、ついにご主人様を見つけたなとワンワンは思いました。

添付資料

JJ19

ある日、えーと、道路に一台の車が止まっていた。
そこから突然くる、えー、犬が、飛び出し、窓から飛び出てきました。
実際、車の中の犬の飼い主が窓からその犬を突き落としたのでした。
車はすぐに走り去っていき、犬は一生懸命車を追いかけてました。
うーん、あ、一生懸命追いかけたんですが、
車のスピードはすごく速く、犬はなかなか追いつけません。
うーん、結局犬も疲れてしまい、
とぼとぼと道を歩いてい、うーんとぼとぼ道を歩きました。
そして、まあ、あの、疲れたので、
道端でこう一休んでいたんですが、
そのあと、また歩き始めたときに、
ちょうど車がやってきて、
で、あの一、こう一、事故を起こしました。
で、まあ、犬はもうどうすればいいかわからなくなってしまって、
それで、えー、その場を後にしました。
そして、まあ、また歩き続けていると、
海にたどり着きました。
で、まあ、海でどうしようかなと考えて、家に帰りたいかなと考えて、
どうすればいいのかなと考えていました。
で、まあ一空も暗くなってきて、
まあ一、あの一こう一このもとの自分が捨てられたところに戻ろうと思い、
まあ、道に迷いながらもその場所に帰ってきました。
で、ここで、うーん、しばらくまあ待っていると、
前に飼い主が現れ、
そして飼い主がこう一寄ってきて、
本当に後悔して、犬に謝りました。
で、犬はそれですごく喜んで、
飼い主に飛びつきました。
そしてまあ一たぶん二人は、犬と飼い主と一緒に家に帰ったと思います。

添付資料

JJ20

えーと、最初に、最初の場面というのは、えーと、車が一台、えーとおそらく砂漠を、にやってきて、
そ、そこ、その道、そこです、飼主らしき人が、犬を捨てるというシーンです。

で、車は走り去ります。

で、その犬は匂いを嗅いで、

その飼主の後を追おうとするんですけども、

結局は姿が見えなくなって、車の姿が見えなくなります。

で、そうやって道を歩いて、

それで、道を、えーと渡ろうとしたときに、えーと二台の車在那个場面正面衝突をして、

さい、にえーと横転して、

で、えーと、火事になるという場面がありますが、

えーと、そのあと、結局その犬は、その一、事故の場所を離れて、

更に歩き続けて、

えーと周りが暗くなると。

で、そうやって歩いていくと、とある町にどうも着いた。

で、町の中に更に歩いて行って、

えーと最後には、おそらく子ども、女の子らしき子ども、

とえーと巡り会う、という、

で、おそらくその子が飼うことになるんだらうというようなところで終わります。